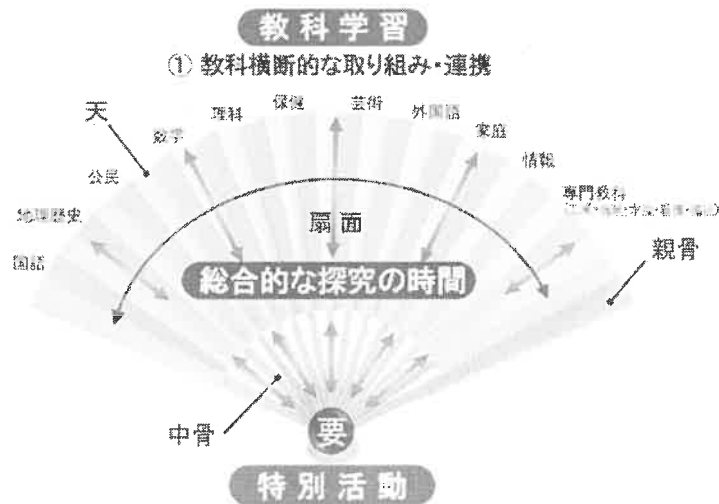


2021(令和3)年度 コア探究実施報告書

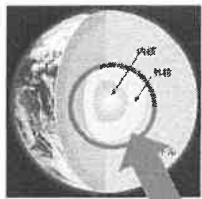
(文部科学省 WWL コンソーシアム構築支援事業)



わかりやすく図にするとこんな感じ？

コアとは？

- ①生産者になるための
エッセンス(スキル、マインド)
を育てる授業。
- ②総合的な探究の時間として、
3年間実施。
- ③高1ではコアとCSLの2時間がある。



コア

コアが教科やクラブ・行事のより良い学びにつながり、
逆に教科などでの学びがコアの学びを支える。

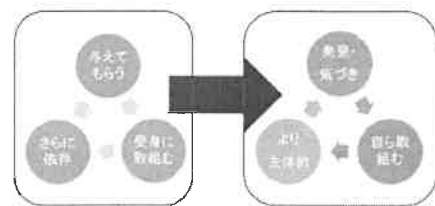


最も大切なこと

お客さまからの脱却

お客様モデル

生産者モデル



成長のために大切なのはここ！



立命館宇治中学校・高等学校
Ritsumeikan Uji Junior and Senior High School

Greetings

With the support of the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, the Kyoto Prefectural Education Division, and the steering committee members, we were able to summarize the research and development of our "core exploration" efforts. We would like to express our gratitude to everyone who has contributed to the promotion of "core exploration".

Over the past 20 years, our school has evolved into a school where very talented students can enroll. Although our students are very talented and intelligent and are able to complete their assigned tasks, we have to be aware of the kind of tasks we give them. Are we giving them too much rote learning? or are we teaching them to think on their own. We give them many tasks but rather than setting tasks one after another, it is necessary to develop their internal motivation and to increase their intellectual and mental "muscle strength".

By encouraging students to "think for themselves", "think critically" and ask intelligent questions and work together in projects we are training them for serious tasks in the real world that will eventually benefit society

Much of the work towards "core exploration" has been carried out by our younger teachers and their hard work is being rewarded by more and more excellent project work by our students.

Based on this hypothesis, we started our efforts in 2018, and this year all three grades been doing projects that they were truly involved in and interested in. This booklet summarizes not only the parts that feel the response according to the hypothesis, but also the parts that require re-verification of the hypothesis. By receiving further suggestions and advice from everyone and continuing this initiative, we will take on the challenge of developing human resources who will have a strong driving force inside themselves and experience the fulfillment and enjoyment of real learning.

RitsumeikanUji Junior & Senior Highschool Principal Joseph Hicks

この度、文部科学省、京都府文教課、運営指導委員の先生方のご支援をいただき、研究開発「コア探究」のとりくみをまとめることができました。研究会その他のところで、さまざまなご助言をいただきました関係の皆様へ改めて御礼を申し上げます。

本校は、20年来の取り組みの中で、非常に優秀な生徒に入学していただける学校へと進展して参りました。一方で、指示されたことや課題は熱心に取り組むものの自発的に学びや自己の成長へはたらしめていく生徒が減ってきている、というもどかしさを感じていました。そこで、教員はさまざまな課題を課して生徒の成長を促そうとし、生徒もそれに応えようとするものの、生徒・教員の両方が、そのことによって疲弊しているのではないか、という疑問が立ち上がってきました。次々と課題を設定するのではなく、生徒がそれぞれの将来像にむけて自発的に行動できる力、それを支える知的・精神的な「筋力」を太らせる取り組みが必要ではないか、という議論が、若い教員を中心に展開され、それを具体化する教科「コア探究」を設定するに至りました。

各教科の学びの根源となる「疑問をもつ力」・「問いを立てる力」を刺激し、各教科に共通する学びのスキルを鍛えることで、教科の学習が教員の与える駆動力に頼ることなく自発的に進んでいくのではないかと、生徒が感じた「問い」とキャリア指導が重なることで、自分がどのような課題解決を通じて社会に貢献するのか、という将来展望を見出すことにつながるのではないかと、というのが私たちの仮説です。

この仮説に基づいて2018年度より取り組みをはじめ、今年度は3学年すべてが「コア探究」に取り組みました。仮説どおりの手ごたえを感じている部分のみでなく、仮説の再検証が必要なる部分もあわせてこの冊子にまとめられています。皆様のさらなるご指摘やご助言をいただき、この取り組みを継続していくことで、自分の内側に強力な駆動力を持って、学習やその他の活動に進んでいく人材を育成していくことに挑戦して参りたいと考えています

2021 年度 コア探究実施報告書 目次

報告書の発行にあたって

冊子の読み方マニュアル	3
コア探究研究概要・4年間の成果	5
コア科目とは？ 担任会議説明資料	7

(授業編・3年生)

授業シラバス	9
コア探究Ⅲ授業一覧	10
ループリック (生徒配布プリント)	11
授業のパワーポイント・ワークシート (主なもの)	12
生徒作成ポスター	31
生徒のテーマ一覧	33
コア探究Ⅲ総括	35

(授業編・2年生)

授業シラバス	38
コア探究Ⅱ授業一覧	39
口頭試問、自分マニフェスト	40
授業のパワーポイント・ワークシート (主なもの)	44
コア探究Ⅱ総括	56

(授業編・1年生)

授業シラバス	60
コア探究Ⅰ授業一覧 (コア・CSL)	62
授業のパワーポイント・ワークシート (主なもの)	63
生徒作品 (コンセプトマップ)	75

(研究編)

研究開発実施報告書 (文科省報告文書)	76
---------------------	----

(資料)

高3生徒作品 (日本一受賞作・ポスター)	92
高3生徒新聞掲載記事	94
コア探究・取り組み紹介スライド (教員研修スライド)	97

コア探究報告書 読み方マニュアル

★次のチェックに一つでもあてはまる人はぜひこの冊子を読んでください。

(チェック)

- 総合的な探究の時間とは何かよくわからない。
- なぜ総合的な探究の時間は大切なのか知りたい。
- 探究や総合的な探究の時間に興味がある。
- 総合的な探究の時間について文科省の研究開発学校としての取り組みの全容を知りたい。
- 総合的な探究の時間をどのように運営していくのか知りたい。
- 総合的な探究の時間の授業内容やワークシートを見たい。
- 総合的な探究の時間に生徒がどのようなことを学び、どのように変わるのか知りたい。
- 総合的な探究の時間を実施して先生がどのような感想を持ったのか知りたい。
- 総合的な探究の授業を通して生徒（や教員）がどのように変化するのか知りたい。
- 総合的な探究の時間に生徒がどんなテーマに取り組んだのか知りたい
- 立命館宇治高校の総合的な探究の時間やキャリア教育授業に興味がある。

<報告書の構成>

①授業編（1年生～3年生）（p9～p75）

授業の全体像

- ・授業シラバス
- ・授業一覧
- ・担任会説明資料



授業実践／生徒作品

- ・授業スライド
- ・授業のワークシート
- ・生徒作品など

②研究編（p76～p103）

研究編

- ・研究開発実施報告書
（文科省報告資料）

資料

- ・生徒受賞作品
- ・生徒活動紹介記事
- ・取り組み紹介スライド
（教員研修資料）

<よくある質問・疑問と、それに対応する報告書のページ>

(報告書をすべて読む時間がないときは下の疑問にあてはまるところから読みはじめてください)

よくある質問		対応するところ
①なぜ総合的な探究の時間を実施するのか？	⇒	巻頭挨拶、p7～p8
②総合的な探究の時間のカリキュラムや内容、シラバスは？	⇒	p9～p10、p38～p39、 p60～p61
③総合的な探究の時間をどのように教員に説明した？	⇒	p7～p8、(p92～p96)
④1年間のまとめ（面接試験（口頭試問））をどう実施した？	⇒	p40～p43
⑤コア探究ってどんな授業？ 生徒はどんな反応？	⇒	p12～p31、p41～p55、 p62～p75
⑥文科省に報告した報告書はどんなもの？ 研究体制は？	⇒	p76～p91
⑦探究授業の成果は（教員や生徒の変化など）？	⇒	p83～p90
⑧探究授業を実施してのリアルな総括が知りたい	⇒	p35～p37、p56～p59
⑨生徒が取り組んだテーマが知りたい。	⇒	p33～p34
⑩「コア探究」の取り組みを短時間で理解したい。	⇒	p97～p103
⑪キャリアパスポートの取り組みにつながる場所はどこ？	⇒	p20～p24、p31
⑫生徒の作品や紹介記事は？	⇒	p92～p96

令和4年度 コア科目「総合的な探究の時間」研究の概要図

立命館宇治中学校・高等学校

【学校教育目標】

「自由と清新」と「平和と民主主義」に基づき、卓越した言語能力に基づく理性と探究心、バランスのとれた豊かな個性、正義と倫理に貫かれた寛容の精神を身につけた未来のグローバルリーダーを育成し、世界と日本の平和的発展に貢献する。

【育てたい生徒像】

- ①豊かな教養と確かな学力を身に付け、主体的に学び考える姿勢を持った生徒の育成
- ②高い教養と語学力と背景に、多文化協働でリーダーとして活躍できる能力の育成
- ③高い倫理観と規範意識を備え強い責任感で社会や世界に貢献できる生徒の育成

理想とする人間像(learner Profile)「究」「知」「考」「話」「義」「寛」「仁」「挑」「健」「省」

【コア科目の目標】

各教科学習や各種自主活動に主体的・能動的に取り組む土台となる力を育成する。課題を設定する力や自らテーマを定めた課題研究を仕上げるアカデミックな力と、省察から将来の目標を設定する力や自己決定し自ら取り組むことができる力を持ち、自ら発信できるようになる。

コア:カリキュラムの要

2030年以降の教育への提言

ISN2.0への参加

総合的な探究の時間のモデル作り

④教員の変容

- * コアの指導による教科指導への効果の可視化
- * 学習する組織作りの研究
- * チームで指導することによる指導力変容の研究

③生徒の変容

- * リテラシーやコンピテンシーの変容研究
- * キャリア意識の変容調査
- * 教科学習への効果研究
- * 課題研究の質向上、発信数増加などを測定
- * 総合的な探究の時間がコアとして位置づく過程の研究

日本版コア科目
(総合的な探究の時間)の開発

①カリキュラム開発 (コンテンツ)

<段階的に高度化する探究カリキュラム>

高1(2単位) 徹底的につなぐ力
探究1 問いを立てることから“学ぶ意味”へとつなぐ
探究2 学びや経験を自分の未来とつなぐ

高2(1単位) 自分ごととなる課題を設定する力
探究3 自らが解決したい社会課題の設定
探究4 自分の探究テーマ・研究課題の設定

高3(2単位) 自ら発信する力
探究5 自らのキャリアと結びついた課題研究完成
探究6 課題研究の発信やプロジェクト化

②カリキュラムマネジメント・評価

<探究を軸にしたカリキュラム構築>

- * コア科目と各教科の関係の可視化
- * 学びを評価する方法の研究
- * 学びや経験を蓄積する方法の研究

校内組織=2つの組織

- ・推進委員会:副校長、教頭、研究主任、学年主任(3人)
- ・各学年チーム

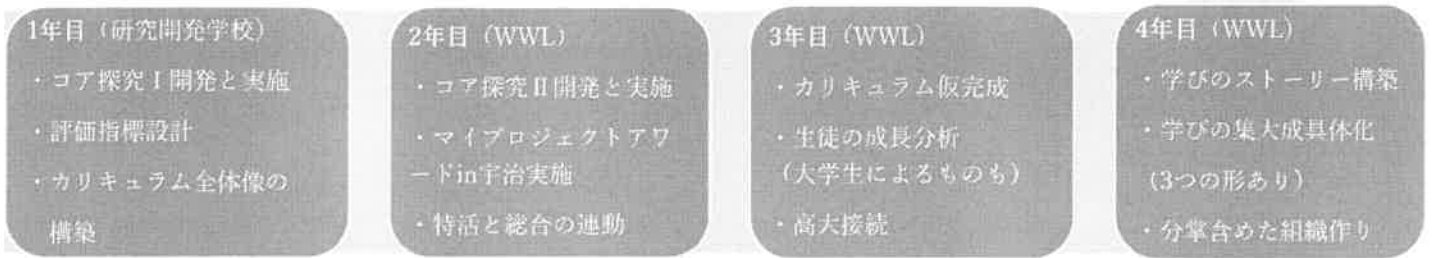
研究組織=運営指導委員会

- 大学研究者、ISN事務局長、立命館一貫教育部、民間企業の方など

コア探究・4年間の研究の成果 (2018年度～2021年度)

★研究のねらい＝教育課程の核となる「総合的な探究の時間」の研究開発

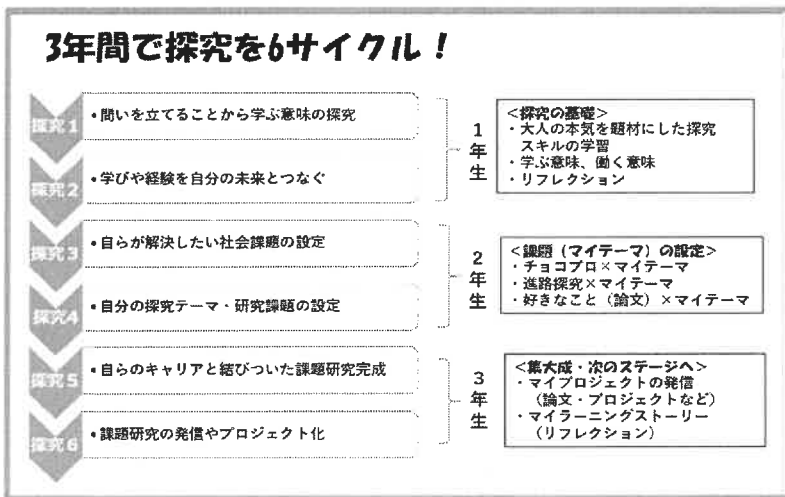
コア探究の軌跡



(この間の主な知見)

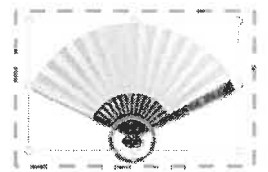
- * 教員が変化するプロセス：①不安（寄り添うチームが大事）→②教科とつなぐ（教科の見方・考え方が大事）→③教育課程全体を見る（資質・能力が大事）→④ストーリーを紡ぐ（教育活動をつなぐ視点が大事）
- * 3年目の知見：①総合でこそ育つ力がある（思考・判断・表現）②鍵はマインドセット（グロスマインドセット）
- * 4年目の知見：①探究が豊かにする学びのストーリー ②マイテーマがあるから生徒が学校外とつながれる ③カリキュラムマネジメントは学びのストーリー。核は総合と特別活動。

完成したモデルカリキュラム／知見



★カリキュラムの核は総合的な探究の時間と特別活動。
大切なのは「**マイテーマを深めて社会とつながる個別最適な学校を越えた学び、出会いと原体験**」

- ・コア探究（総合探究）により思考・判断・表現が育つ。
- ・マイテーマの設定が重要で、卒業後や社会ともつながる。



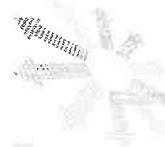
- これは**キャリア教育**そのもの
- ・**カリマネはストーリー作り**。コア探究は核になれる！

主な成果



- ・生徒の**キャリア意識や力の向上**
- ・日本一複数を含む**対外的な受賞**
- ・生徒の**学びのストーリー作り**
- ・教員の**成長やチーム作りの可能性示唆**

コア探究は広がる



- ・多数の視察受け入れ
- ・講演などでの事例共有
- ・新聞記事掲載
- ・ISIN2.0 とのコラボ

残された課題

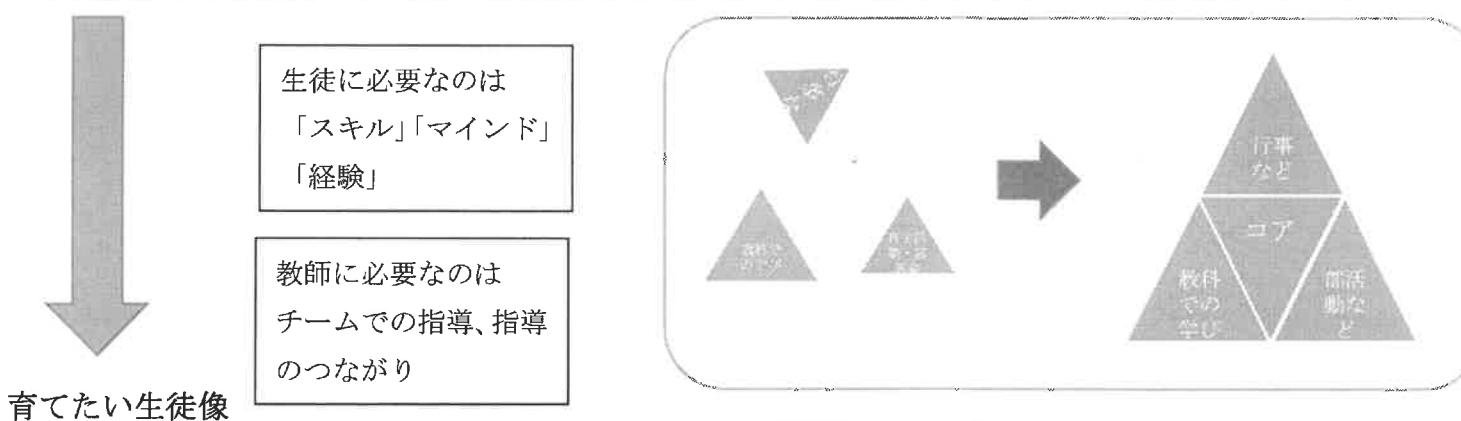
- ・より一層の中高大接続
- ・学校外との連携
- ・校内外への浸透
- ・個別最適化（ストーリー）

担任会議説明資料 コア科目（高校）とは？

- ・アクティブラーナー育成の土台となる部分を育てる科目
 (+社会・大学・将来につながる学び、課題研究をゴールとする附属らしい学びを体現する科目にする)
 (+教員も成長する科目にする)
- ・よく使われる言葉で表現するなら 高校コア=キャリア+探究 , 探究=TOK+PBL+課題研究
- ・「学ぶ意義・学び方」「他者との関わり方」「自ら問いを立てること」「自己管理」「前向きなマインド」など、すべての教育活動の根っことなる力を、教員みんなで育てていく。
- ・コアを担当中心に指導することで、コアの内容は自然と全教員に浸透し、各教科の指導はもちろん、部活動や行事などにも活かされる。生徒にとっては、指導されていることのつながりがより見えるようになる。

生徒たちの現状

従順だが口をあけて待っている生徒（教科学習・部活動・学校行事のすべてに共通した根底的な課題）



意欲(学ぶこと・人生そのもの)にあふれ、自ら学び行動できる生徒「Active Learnerの育成」

☆上記の解決策：コアを柱として教育の根っことなる力を育て、チーム立宇治で生徒を育てる

中学校「問いを立てて深く考える」「学びへの興味・関心」



高1「学ぶ意味・働く意味の理解」「将来の見通しを持つ」「ボランティア」
 「学び方」「問いを立てる」「集団作り」「人との関わり方」



高2「自分事となる社会課題と出会い、マイプロジェクトを持つ」
 問いをたてる力・課題発見能力・テーマ設定力などを育て、
 マイプロジェクトを進める力を身につける



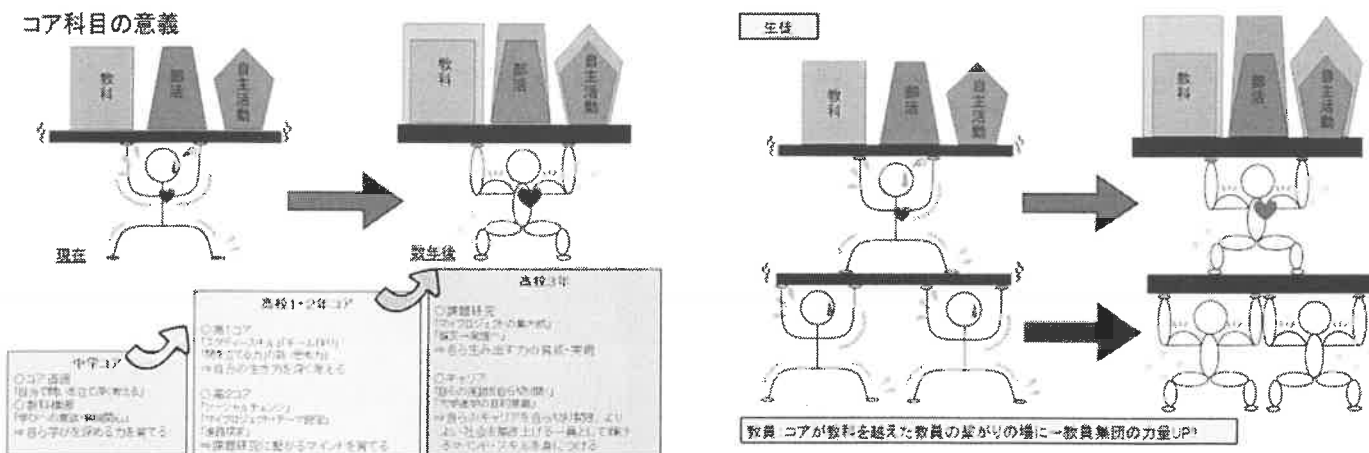
高3「学びの集大成としてマイプロジェクトにも関連する課題研究を仕上げ、社会に発信。より良い社会を自ら作っていきける。自らの核を確かなものにして卒業する」
 (前期で課題研究を仕上げる。PBLなどで自ら社会と関わる。発信しブラッシュアップする)



(ここに各教科での指導、部活動、学校行事なども加わることで)

学ぶことの意味を知り、将来への意欲にあふれ、大学以降で生きるアカデミックな力(課題研究を仕上げブラッシュアップする力)も身につけ、実際に行動にうつせる生徒になる。





(担当体制と運用)

高1コア 2単位=1単位 (CSL) +1単位 (コア)

CSL：各クラスごとに違う時間で実施。学年・キャリア部・前年度担当者から3名程度担当者を決める
(2021年度は田内・三井・生田・徳地) /9クラス

コア：木曜日1時間目に実施。担任+主任で担当。チームを作り、担任100%抱え込みにならないよう工夫。
(2021年度は担任9名+主任)

高2コア 1単位

金曜日1時間目に実施。担任+主任で担当。チームを作り、担任100%抱え込みにならないよう工夫。
(2021年度は担任7名+主任)

高3コア 2単位

金曜日4・5時間目に実施。月に一度程度の会議で内容を確認しながら進める。

(2021年度は7クラスを21名で担当。担任+主任に加えて各教科からの担当者で担当)

(文科省研究開発指定文書) 2018年4月ホームページ公開済み →2019年度よりWWLの一環として実施

1 研究開発課題

カリキュラム構造創出を促す日本版コア科目「総合的な探究の時間」の研究開発
～学びに向かう力や人間性等の涵養、および社会・世界と関わりよりよい人生を送ろうとする「アクティブラーナー」を育成するために～

2 研究の概要

日本版コア科目「総合的な探究の時間」の研究開発を行う。生徒をアクティブラーナーとして成長させていく上では、教科領域と教科外領域の関係性を高め教育課程全般の教育力を向上させていくことが大きな意味を持つ。これを可能にするカリキュラムと教育内容や評価方法を確立し学校として取り組んでいく。既存教科にばらばらにある探究的教育活動の共通項目やベースをコア科目に集中させることによりカリキュラムを精選し、トータルでアクティブラーナー育成に資する教育を提供するためのカリキュラムマネジメントの推進力とする。コア科目はすべての教育活動に通底する力を育てる、文字通り中核と位置づける。本研究では教員にとってはコア科目と教科の指導、生徒にとってはコア科目と教科の学習がどのような過程を経てつながっていくのかも明らかにする。これにより学校のカリキュラムマネジメント進捗が見える化し、そのモデルを明らかにする。

コース等	学年	単位数	教科	科目	検定教科書	副教材		
IG	3	2	総合	コア探究 Ⅲ	×	×		
到達目標	<p>【課題研究（8000文字論文またはプロジェクト）の完成と発信、マイラーニングストーリー】</p> <p>①課題研究を仕上げ、その過程を通じてアカデミックなスキルや思いを行動にうつす方法を自らのものにする。</p> <p>②課題研究の内容を社会に発信する。発信はプレゼンのみでなく、プロジェクトへの参加なども含むが、発信をすることで自らの課題研究をブラッシュアップさせることができる。</p> <p>③リフレクションを通じてマイラーニングストーリーを完成させ、高い意欲をもって次のステージへ歩み出す</p>							
評価の観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	定期考査実施				
	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究を仕上げるための基本的なアカデミックスキルを身につけている。 高校生活をふりかえる方法について理解し実践できている 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ表現する力を養う。 自分の武器（課題研究）を活かして、自ら社会に対して何かを働きかける経験をする。それができる場所を判断できる。 	<ul style="list-style-type: none"> アウトプットを通じて、課題研究の修正や将来の目標の明確化など、自らの成長につなげることができる 自分の高校生活のふりかえりから、卒業後の生活について高い意欲を持っている。 		中間	期末	課題点(%)	
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ルーブリック（授業で提示） 	<ul style="list-style-type: none"> ルーブリック アウトプットの質や量 	<ul style="list-style-type: none"> コア探究への取り組み姿勢 マイラーニングストーリーの内容 	1学期	×	×	×	
				2学期	×	×	×	
				3学期	×	×	×	
				年間課題点平均(%)		×		
期間	時間数	学習項目			学習到達目標		評価方法	
1学期	中間まで	1 2	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究 *5000文字論文の提出と読み合わせ *中間発表 (プロジェクトの場合は、プロジェクトを固めることがテーマ) 			<ul style="list-style-type: none"> 最低 8000 文字の課題研究を完成させる。(夏休み明け) 		ルーブリック
	期末まで	1 0						
2学期	中間まで	1 4	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究の完成 (プロジェクトの本格的な始動) ポスター作成とアクション発表 (プロジェクトの報告書完成) 			<ul style="list-style-type: none"> 課題研究(またはプロジェクト)をポスターにまとめたものを完成させる。 マイラーニングストーリーを完成させる 		ルーブリック アウトプットの質と量
	期末まで	1 2	<ul style="list-style-type: none"> マイラーニングストーリー 			<ul style="list-style-type: none"> 課題研究完成後のアクションを実行する。(プロジェクトについて、何らかのコンクールに出す) 		
3学期	期末まで	8	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション 課題研究の修正と完成 			<ul style="list-style-type: none"> 課題研究(プロジェクト)やマイラーニングストーリーなどを学外の人を含む場で発表。 		ルーブリック プレゼンテーション
備考	課題研究論文またはプロジェクトとそのポスター、マイラーニングストーリーの完成が単位認定条件である。詳細は授業で指示する。1月末の学習発表会で全員発表する。課題研究優秀者は表彰する。							

<コア3年>金曜日4・5時間目

回数	月	日	内容1(論文)	内容2(PJ等)	備考
1	4	16	オリテ・アウトライン作成	企画書作成	
2		23	テーマの確認・アウトライン作成	プロジェクト作り	顔合わせを行う
		30			休日
OL 3	5	7	アウトライン発表	課題設定、情報収集	
OL 4		14	ツッコミシート→アウトライン再考	報告会→情報収集	(体育祭予備日)
5		21	構想発表説明、作業続き	整理分析	
OL 6		28	作業続き	作業続き	
7	6	4	構想発表1	中間発表	
8		11	構想発表2	プロジェクト作りと実行	
9		18	引用について→各自作業	各自	
10		25	論証スケルトン→各自作業	各自	
	7	2			テスト
11	9	9	発表	発表	学年全体でグループ作る
		16			PM終業式
12	9	3	夏にほぼ完成させる！ 課題研究完成へ	夏にプロジェクトを進める！ プロジェクト報告書作成	
13		10	ポスター／起業家特別授業		
14		17	ポスター作成	同上	
15		24	ポスター作成＋発表練習	同上＋発表練習	
16	10	1	グループごと発表	PJ中間報告	
17		8	同上	同上	
		15			テスト
18		22	学年発表会	同左	
19		29	リフレクション	同左	
	11	5			PM面談
20		12	マイラーニングストーリー	同左	
21		19	アウトプットor完成へ	PJ報告書	
22		26	アウトプットor完成へ	PJ報告書	
23	12	3	アウトプットor完成へ	PJ報告書	
24		10	アウトプットor完成へ	PJ報告書	12/4 探究活動
25	1	14	発表会準備	同左	
26		21	研究発表会・発表	同左	WWL研究会
27		28	コア探究の学び・まとめ	同左	

☆課題研究を早く完成させて、何らかのアクションに進めたい

☆プロジェクトは探究サイクルを多く回させたい。Do重視。

☆プロジェクトについて:グループは最大3人。起業プランもOKとする。DO必須。上限80人。

希望者多ければプランで選考。SDGsなどで取り組んでいるものでもよい。

マイプロまたは起業コンテストに出すこと必須

	5 (理想)	4 (合格)	3 (普通)	2 (最低ライン)	1 (不合格)
テーマ設定 (課題研究の 問い)	豊富な先行研究等から研究目的や仮説が設定されており、学術的に意義がある。生徒がそのテーマにした理由がよくわかる。	先行研究等から研究目的や仮説が設定されており、生徒がそのテーマにした理由がわかる	研究目的や仮説は設定されており、生徒がそのテーマにした理由もわかるが、先行研究などとテーマとの関連がわからない。	生徒が興味を持っている内容をテーマにしているが、仮説があいまいで確実に調べ学習で終わる。	テーマを設定した理由がわからない。
内容 (資料やデータの分析含む)	コンクールで入賞するなど、対外的に高い評価を得ることができるレベル。	他の人の興味を引くその生徒ならではの結論を、資料やデータをもとに論じている。	複数の意見を組み合わせながら、自分なりの考察ができてきている。	考察はしているが、内容が一般的であり、自分なりの答えではない	資料の丸写しレベル。自らの考察がない。
引用* (情報収集含む)	書籍・論文を10以上引用している。	書籍・論文の引用が7~9	書籍・論文の引用が4~6	書籍・論文の引用が1~3	書籍・論文の引用がない
お作法	誤字脱字、入力ミスなど初歩的なミスが1つ以下。	誤字脱字、入力ミスなど初歩的なミスが3か所まで	誤字脱字、入力ミスなど初歩的なミスが6か所以下	誤字脱字、入力ミスなど初歩的なミスが7~14か所	誤字脱字、入力ミスなど初歩的なミスが15か所以上
ポスターの完成度 (工夫には情報の取捨選択含む)	研究内容を把握することができ、見た人が研究成果をすぐに把握できるよう工夫されている。	研究内容を把握することができ、伝えたいことが何かがわかるよう工夫されている。	最低限必要なことが書かれており、研究内容を把握することができる。伝え方を工夫しようとはしている。	仮説、先行研究、研究の結果など、ポスターとして最低限必要な内容が書かれている。	研究内容について把握することができない。
キャリア (ふりかえりで評価する)	課題研究と自分の進路がつながっている。本人が大学での学びと課題研究の学びのつながりを明確に説明できる。	3と5の間	課題研究と自分の進路につながりについて、自分なりに表現することができる。	3と1の間	課題研究の取り組みと自らのキャリアのつながりが全くない。
アウトプット	学外でのプレゼンを含むアウトプット5回以上。または課題研究に関連するプロジェクトを立ち上げる。	学外でのプレゼンを含むアウトプット3回以上。または課題研究に関連するプロジェクトに参加する。	課題研究のアウトプットを発表会など何らかの形で学校外の方の方も参加できる場で行った。	課題研究のアウトプットを何らかの形で行ったが、聞き手は学校内の人のみ。	課題研究を仕上げで終わり。アウトプットをしていない。


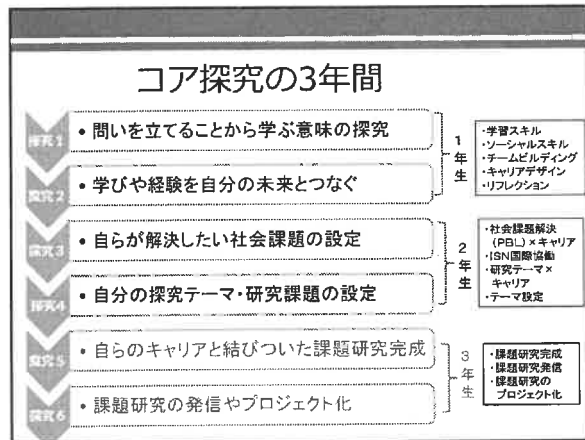
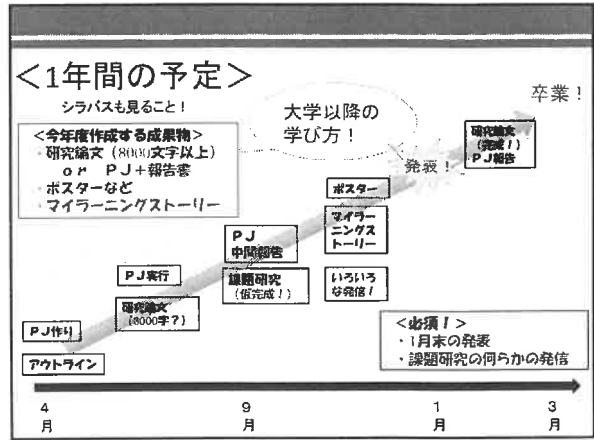
<最低ライン> ・アカデミックオネスティー ・文字数は8000文字以上

*引用について、アンケートやフィールドワークを実施した場合4つの引用とカウントする。

コア探究Ⅲ (4月16日)

～オリテ・1学期の予定～

Your Link to the World

1学期のミッションは2つ!


①アウトライン(目次)作成 ← 研究論文

②5000文字チャレンジ

①プロジェクト企画書 ← PJ

②プロジェクトを進める

途中で中間発表など設定しながら進めます



改めて大学以降のことを考えよう!

①大学は 学部 を決めて入学する

例)スポーツについて学びたい(1先輩) ← 学びたいことが何かを知っていることが重要!


例)地域について学びたい(T先輩)

②いろいろな活動をするのが大事!

インターン、プロチームとのプロジェクト、、、(1先輩)

伊根町、Rimix、、、(T先輩) ← 学校外とつながることが重要!

これらがコア探究Ⅲで取り組むこと!



本日の授業の流れ

*課題研究論文の進め方プリントは全員に配布します

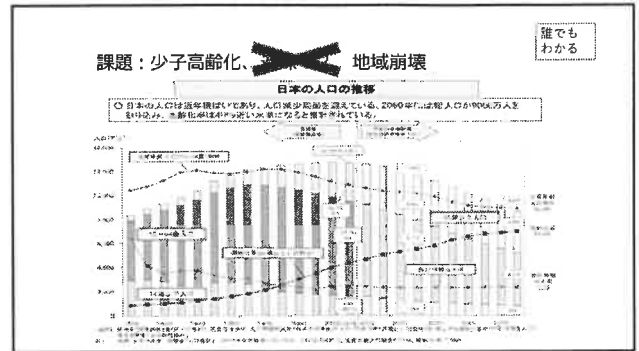
このあとPJを考えている人は大会議室へ移動
→PJについて説明し、テーマ設定や企画書作成を行います

研究論文の人はテーマ確定とアウトライン作成
→ZOOMでこのあと説明します(残り作業)

今日の授業の最後にclassiアンケートで自分はどこにするのか答えること!

来週には担当の先生を発表します!

高3 コア探究について



プロジェクト+報告書 (3000文字以上)

OR

課題研究論文 (8000文字以上)

プロジェクトは課題解決への実行を含んだもの

例) 「俺たちのOtOMeしらす!!!」
(実行者:宮城県立宮城農高等学校)

地元が「人の住むことのできない危険区域」に指定
→許せない! 商品開発で人を呼び込もう!

➡ しらすに着目し商品開発

➡ 地元の新名物北限のシラスを使用した
「パリッと關上おにしらす」開発



全国のパントリーマート18000店舗で商品化!

プロジェクトって何?

何らかの目標を達成するための計画。
基本的に集団で大がかりに実行する
ものを指す

<こんな例もあります>

「竹で築こう」 島根県立津和野高等学校

島根県の津和野町



- ◎ 竹林が多い、
- ◎ 竹がいろんなことに使われている

× 竹林が放置されている

➡ 次の世代を担う高校生が竹林に関わっていきける機会を作りたいと思いプロジェクトを実施。

R

2019年度・マイプロジェクトアワード全国出場プロジェクト（例）

- * 宮城県農業高等学校「命のバトンPROJECT」
- * 私立横浜女学院高等学校「エシカル消費とSDGs！～ビジネスが世界を救う～」
- * 静岡市立高等学校「私たちはまだ幸せを知らない」
- * 私立八王子実践高等学校「高校生が人の命を救う」
- * 長野県上田高等学校「カンボジア行プロジェクト」
- * 名古屋経済大学市邨高校「多様な性,生,say ～目指せジェンダーレス社会～」
- * 福井県立若狭高等学校「オタクの力で地域を活性化するには」
- * 福井県立若狭高等学校「水とスマイルプロジェクト～被災地と笑顔のために～」
- * 私立N高等学校「N高CM企画」
- * 岡山県立倉敷古城池高等学校「5年連続！子ども食堂で、いたしませんか！」
- * 島根県「教科書PJ ～SDGs学NDesign」
- * 石川県「#ひとりじゃないよ ～道を失った人々に笑顔と自信を～」
- * 熊本県「熊本通信制高校のスポーツフェスティバル」

<https://www.katariba.or.jp/news/2020/03/05/21073/>

<昨年度高3>



<プロジェクトについて>

何らかの社会課題に対して、問いを立て改善案を考える
→課題に解決に向けて実行する

- * プロジェクトの実行とその報告書完成（3000文字以上）が成果物となる。
 - * プロジェクトを選べるのは学年で80名まで。応募多数の場合は審査。
 - * 起業という形を考えたもよい
 - * SDGs やクローンチなどで取り組むものでもよい
 - * グループの場合3人を上限とする
 - * マイプロジェクトアワードまたは起業コンテスト、ワンワールドフェスティバルに応募することを必須とする。
 - * プロジェクトテーマは自分で考えるが、上限3名で植物公園活性化プロジェクトに取り組むことを可とする。
- ⇒4月初回の授業で決定してもらいます。PJか論文かを考えておくこと。
初回の授業では改めて質問受付なども行います。
⇒論文の人も改めてテーマを考える必要があります。週末考えましょう！

コア探究Ⅲ (9月17日)

～ポスター制作を進めよう！～

Your Link to the World

R

当面の予定

9月17日(金)・24日(金)

→論文の完成へ！プロジェクトや起業プラン進める！
+ポスターを作成する

10月1日(金)・8日(金)

→ポスター発表(担当の先生ごと)
→PJ・起業プランチームは報告書作成あり

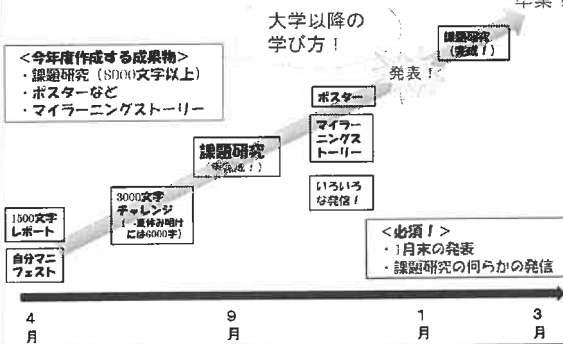
10月22日(金)

→ポスター発表(学年全体)

★今後各チームごとに変更はあります。

R

<1年間の予定>



もう一度ポスターの作り方を確認しましょう

興味を持ってもらえるかはポスターで決まる！！

今日はポスターを仕上げるつもりで取り組みましょう！！

R

2学期の予定

<必須！>

- ・1月末の発表
- ・課題研究の何らかの発信

9月	課題研究の仮完成、ポスター作成 と伝えず仕上げる！
10月	課題研究・PJなどの発表 プレゼン実施！（将来大切な学び）
11月	高校の学びふりかえり→大学へ 自分のストーリーを作る
12月	論文：課題研究の修正と完成 PJ・起業：報告書執筆 全員：1月の発表に向けて準備(ポスター完成) フラッシュアップと集大成

R

ポスター制作についての大切な補足

- ①以下の問を考えると内容が決まる
 - ・自分たちが明らかにしたこと(成果)は何？
 - ・もっとも伝えたいことは何？
 - ・どのような課題が残っている？
- ②主張したいこと、自分(たち)が明らかにしたことを明確に短くアピールすることが重要！
+図や写真も使って視覚的に！
- ③ポスターを作成することで課題研究の修正点に気づくはず。それは反映させること。

R

作業するときにぜひ見てください！

その1:ポスターの作り方から発表までのTips
高校化学グランドコンテストオンラインレクチャー【ポスター発表について】(19分32秒)
<https://www.youtube.com/watch?v=zuLd6V2k-lk>

その2:ポスター発表するときの留意点(英語:日本語字幕表示可能)
Giving an Effective Poster Presentation (11分55秒)
<https://www.youtube.com/watch?v=M5aFUrk-FA>

このスライドはclassi・コンテンツBOXに置いておきます



外に発信することで取り組みは進む！

先週起業プランチームを対象に特別授業があり、
ゲスト(専門家)に来ていただきました。

感想を聞いてみましょう！



これ以降はプロジェクト・
起業プランの人のみ



①学校の中や外とつながっていく！

★どこどのようにつながれたら、
プロジェクトは広がりますか？

起業(コラボ)とつながって商品開発をした例
体験談を聞いてみましょう！



ここからの大きな課題

1ミリでも社会を変えるのが、
プロジェクトや起業プラン

- ①学校の中や外とつながっていく！
- ②プロジェクトの発信！！



②プロジェクトの発信！！

8月23日(月)
京都新聞朝刊
(福田さん・
田中さん)

食品ロス 野菜苗を生かそう



どうしてこうなった
のか聞きましょう！

みんなは自分の
プロジェクトをどこに
どう発信しますか？



3年()組()番()

<ポスター発表について> 論文は1人4分~5分、PJ・起業プランは1グループ5分~7分で行う。

発表のあと必ず質疑応答があります。50分で4人~5人発表。

評価 以下の基準で評価する。

	5	4	3	2	1
A、研究内容 (PJや起業は内容とアクションで()内が評価基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・興味深い。 ・社会的にも研究する意義(プロジェクトや起業を進める意義)があると思う。 ・素晴らしい研究であり、努力もしている(アクションが豊富でいろんな大人と関わっている)。 				
	・4をクリアし、かつそれが顕著である	3つすべてを満たしている。	3つのうち2つを満たしている。	3つのうち1つを満たしている。	3つをすべて満たしていない。
B、プレゼン	<ul style="list-style-type: none"> ・説明を聞くことで、より研究内容がわかった。 ・説明の工夫があり、興味深く聞いた。 ・説明が4分~5分で終わった。 				
	・4をクリアし、かつそれが顕著である	3つすべてを満たしている。	3つのうち2つを満たしている。	3つのうち1つを満たしている。	3つをすべて満たしていない。
C、ポスターについて	4をクリアし、それが非常に工夫されたものである。	デザインが見た人が研究成果を <u>すぐに把握</u> できるよう工夫されている。	最低限必要なことが書かれており、研究内容を <u>何となく把握</u> することができる。	いくつか必要な事項が抜けている。	研究内容を <u>把握</u> することができない。

★得点とメモ (20点満点)

① (発表者名: _____) 研究内容()点、プレゼン×2=()点、ポスター()点 合計()点

メモ・いいところ・改善点・感想

② (発表者名: _____) 研究内容()点、プレゼン×2=()点、ポスター()点 合計()点

メモ・いいところ・改善点・感想

③ (発表者名: _____) 研究内容()点、プレゼン×2=()点、ポスター()点 合計()点

メモ・いいところ・改善点・感想

④ (発表者名: _____) 研究内容()点、プレゼン×2=()点、ポスター()点 合計()点

メモ・いいところ・改善点・感想

⑤ (発表者名: _____) 研究内容 () 点、プレゼン×2 = () 点、ポスター () 点 合計 () 点

メモ・いいところ・改善点・感想

⑥ (発表者名: _____) 研究内容 () 点、プレゼン×2 = () 点、ポスター () 点 合計 () 点

メモ・いいところ・改善点・感想

⑦ (発表者名: _____) 研究内容 () 点、プレゼン×2 = () 点、ポスター () 点 合計 () 点

メモ・いいところ・改善点・感想

⑧ (発表者名: _____) 研究内容 () 点、プレゼン×2 = () 点、ポスター () 点 合計 () 点

メモ・いいところ・改善点・感想

⑨ (発表者名: _____) 研究内容 () 点、プレゼン×2 = () 点、ポスター () 点 合計 () 点

メモ・いいところ・改善点・感想

⑩ (発表者名: _____) 研究内容 () 点、プレゼン×2 = () 点、ポスター () 点 合計 () 点

メモ・いいところ・改善点・感想

⑪ (発表者名: _____) 研究内容 () 点、プレゼン×2 = () 点、ポスター () 点 合計 () 点

メモ・いいところ・改善点・感想

⑫ (発表者名: _____) 研究内容 () 点、プレゼン×2 = () 点、ポスター () 点 合計 () 点

メモ・いいところ・改善点・感想

⑬ (発表者名: _____) 研究内容 () 点、プレゼン×2 = () 点、ポスター () 点 合計 () 点

メモ・いいところ・改善点・感想

*ズバリ1位・2位は→ (1位 _____)、(2位 _____)

*1位・2位の人のおかげのところ

1位

2位

コア探究Ⅲ(10月8日)

～報告書についての補足など～

Your
Link to
the World



原体験ドリブン

～なぜ自分はプロジェクトや起業プランに取り組むのか～

原体験:自分のルーツ。私たちのあらゆる行動や考えの
一番の原点や根拠になりうる大きな体験
(原体験を意識していない起業家は失敗しやすい)

⇒自分の動機を深くまで見つめましょう!

動機の深さは4段階ある!

- 1)フアッション:かっこいい、はやっている
- 2)デモンション:その時の気分
- 3)モチベーション:自分事になった強い体験(原体験に紐づくときが多い)
- 4)ミッション:最高レベルの動機(原体験から導く)

今日はここを探ってみます!



当面の予定 ～発表はどうでしたか?～

10月8日(金)

→PJ・起業プランチームは報告書作成+α

10月22日(金)

→ポスター発表(学年全体)



ワークシートに記入しましょう

- ①右の5つの質問に答える
(今やっていることはプロジェクトor起業プランを書く)
- ②「今やっていること」について、「なぜ」を5回繰り返す。
(なぜそう思った?)(なぜそうした?)
- ③他の4つも同じように「なぜ」を5回繰り返す
- ④答えのつながりを考える

<注意>

- *可能なら誰かに聞いてもらおうと効果的かも!
- *小学校あたりの体験も思い出すと意外と深まる!
- *困ったらそう思うようになった(そうした)きっかけは?という問いも使う!
- *書きたくないことは書かなくていい、思い出したくないことは思い出さなくていい!



本日やることについて

- 1) 改めてプロジェクト・起業プランに取り組んでいる意義を確認する。
- 2) 報告書の執筆開始



報告書について

<書く内容は以下の3つ>

- ①タイトル、目的や解決したい課題、自分がなぜ取り組むのか
- ②調べたこと・実行したこと
- ③学びや成長、今後の構想など

★フォーマットのwordはclassiコンテンツボックスに入れます
(書き加えたいことなれば変更可能)

★最低3000文字ですが、こえない方がおかしいです



●今日のねらい

①高校生活の出来事を思い出し、学びや成長を言語化できる。

②自分が成長した要因を言語化できる。

●今日の大切なルール：他の人との共有も一部ある前提で作業する

・書きたくないことは書かなくてよい ・言いたくないことは言わなくてよい ・自分としっかり対話する

・ポジティブ：ネガティブの目安は7:3

●今日の授業で使えるもの

・classiのポートフォリオ ・高校生活の写真

1) 入学時の目標は？

2) 高校生活グラフ（余力あればマッピングシート）を作成しよう

3) 以下の①～④について、A「成長したこと・上手くいったこと」 B「成長できなかったこと・課題として残ったこと」の視点で振りかえろう。その様子を表す写真もあれば見つけよう。箇条書きで多く書くこと。

	A「成長したこと・上手くいったこと」	B「成長できなかったこと・課題として残ったこと」
①学習		
②クラブ・ 自主活動・ 行事		

	A「成長したこと・上手くいったこと」	B「成長できなかったこと・課題として残ったこと」
③コア探究		
④その他		

4) ここまでのリフレクションの整理

①高校生活を振り返って気づいたことは？（なるべく多く箇条書きで）

②高校で自分が一番成長した経験は？その経験を通じてどう成長した？なぜその経験が一番だと思う？

経験：	
(どう成長した)	(なぜその経験が一番?)

③高校生活がこのようになった要因は？

④高校生活をふまえてどのような大学生活を送りたいですか？

★6 時間目 「振り返りから教訓を導く！」

～4時間目・5時間目の振り返りをふまえて、ここまでの高校生活の経験から教訓を導きましょう～

0) 3人グループ。5時間目の最後に整理した内容を共有。(3分×3)

(内容メモなど)

1) 改めて経験の整理→教訓作り (簡条書きで時間いっぱいなるべく多く書くこと)

高校での成長・成功 (継続したいこと)	高校生活で残った課題



(上のことに共通する要因は?)	(上のことに共通する要因は?)
-----------------	-----------------



(上記の要因・成功体験を再現するためにできることは?)	(上記の要因を改善するためにできることは?)
-----------------------------	------------------------

2) 4時間目～6時間目を通じて学んだことや気づいたことを書きましょう。

(時間いっぱいなるべく多く書くこと) (箇条書き可)

3) 今日の感想、残された高校生活や大学以降の生活の目標と決意を書きましょう。

(時間いっぱいなるべく多く書くこと) (箇条書き可)

来週の予告 「マイ・ラーニングストーリー」作成

・高校の自分の成長をポスター(パワポ)で表現

・必ず入れる項目は以下の通り

①自分の成長の軌跡(学年ごと) ②①から選ぶ自分の成長ベスト5

③残った課題=大学でつけたいカベスト3 ④高校のエピソードや感想、写真など(適宜入れる)


⑤大学での生活や将来への抱負(こんなことを頑張る!こういう経験をする!)

⑥将来こんな人になる、こんな仕事につく →⑥は自分マニフェストを見ればベースがあります!

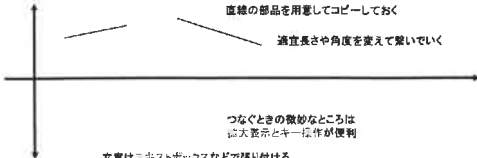
コア探究Ⅲ(11月12日)

～マイラーニングストーリー作成～

Your Link to the World



高校生活グラフのつくりかた(PC操作)




当面の予定

(前週10月29日(金)→高校生活の17レクシオン)

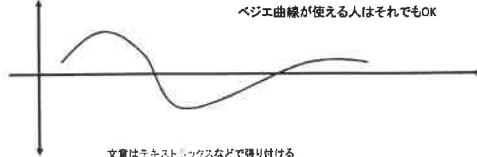
11月12日(金)
→マイラーニングストーリー作成

11月19日(金)
→作成続きor課題研究・ポスターの完成

11月26日(金)～
→課題研究・ポスター完成へ!



高校生活グラフのつくりかた(PC操作)




今週の内容 「マイラーニングストーリー」作成

マイラーニングストーリーとは
⇒高校の自分の成長をポスター(パワポ)1枚で表現したもの。

<必ず入れる項目は以下の通り>

- ①自分の成長の軌跡(学年ごと)
→高校生活グラフを入れる!
- ②①から選ぶ自分の成長ベスト5や成長できた要因
- ③残った課題=大学でつきたい力 ベスト3
- ④大学での生活や将来への抱負
(こんなことを頑張る! こういう経験をする!)
- ⑤将来こんな人になる、こんな仕事につく
→classi自分マニフェストを見るとよい!


+ 高校のエピソードや感想、写真などを適宜入れる



注意

- * 先週のワークシートや先週配布した見本を参考にし、自分の成長やこれからが見えるように!
- * 書きたくないことは書かなくてよい!
- * 1月は課題研究またはマイラーニングストーリーを発表することになる予定です!

ポスター書式はclassiのコンテンツボックス!
↑共有コンテンツの「2021年度高3コア探究関連」フォルダの中ですが、このフォルダ作ったのが4月20日なので、下の方にあると思います



コア探究Ⅲ

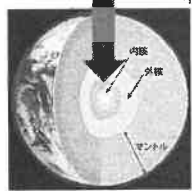
～3年間の『学び』のふりかえり～

2022年1月28日(金)

Your Link to the World R

コアとは？

コア(CORE) = 惑星・衛星などの核。光ファイバーの芯。
中心部・核という意味。



コアの授業は、様々な学びの中心となるもの。

コアの授業は核となるものを育てる授業。

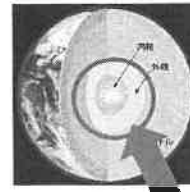
R

コア探究の3年間

探究1	<ul style="list-style-type: none"> 問いを立てることから学ぶ意味の探究 	1年生	<ul style="list-style-type: none"> 学習スキル ソーシャルスキル チームビルディング キャリアデザイン リフレクション
探究2	<ul style="list-style-type: none"> 学びや経験を自分の未来とつなぐ 		
探究3	<ul style="list-style-type: none"> 自らが解決したい社会課題の設定 	2年生	<ul style="list-style-type: none"> 社会課題解決(PBL) × キャリア 産業探究 チョコプロ テーマ設定
探究4	<ul style="list-style-type: none"> 自分の探究テーマ・研究課題の設定 		
探究5	<ul style="list-style-type: none"> 自らのキャリアと結びつけた課題研究完成 	3年生	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究完成 課題研究発信 課題研究のプロジェクト化
探究6	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究の発信やプロジェクト化 		

コアとは？

- 生産者になるためのエッセンス(スキル、マインド)を育てる授業。
- 総合的な探究の時間として、3年間実施。
- 高1ではコアとCSLの2時間がある。



コアが教科やクラブ・行事のより良い学びにつながり、逆に教科などでの学びがコアの学びを支える。

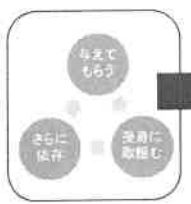
R

最も大切なこと


高1コア初回

お客さまからの脱却

お客様モデル



生産者モデル



成長のために大切なのはここ！

R

かしこさの定義は大人になると変わる！

	旧来の学校教育	探究的な学び 大人の社会
どんな課題が出る？	指示された範囲内	自分で見つける 目的は自ら確認する
誰と解くか？	ひとりで解く	チームメンバーと協働して考える
解いてる間は？	無言	コミュニケーションしまくり
答えは？	ひとつ (であることが多い)	ひとつじゃない 最適解を考えて、PDCAを回しながら見定める
道具は？	鉛筆と消しゴム	使えるものは何でも使う
わからなければ	教えてもらう	自分でアドバイスをもらえ る人を考えて、自分から探しに行く

6

高校1年生の取り組み



感想(多かったもの)

(コア)

- ・とても有意義な授業だった。先生たちがなぜ各教科を学ぶのかを伝えてくれたので、改めて教科を学ぶ意味を考えた。なぜ学ぶのか、なぜ働くのかはこれからの将来で必ず大切なことだから、考える機会があっよかった。
- ・今こうやって1年間を振り返ってみるとこれからの人生で必ず必要となってくるようなことを身につけることができていたことに気づきました。

(CSL)

- ・コア同様、将来役に立つようなことを多く学ぶことができました。
- ・CSL活動ではボランティア活動で社会と関わるのがたくさんあった。学んできたこと、たとえば人との関わり方や自分から動くといったことがいかされていると思った。
- ・自分のことを知ることができた。それがわかったときに今何が必要なのかを考えられるようになった、CSL授業でもっと深く自分と見つめあえたような気がする。

高校1年生:コア探究

1学期：新入生合宿（高島へ）

2学期：学ぶとは？

3学期：ポスターセッション
課題発見・解決

(宇治の方に来ていただいて)



高校2年生の取り組み



高1 CSL(学ぶ意味を考える)



A「社会のルールは頭のいいやつ都合のいいように作られているんだ！」

「だまされなくなかったら、損して負けなくなかったらお前ら勉強しろ！」



高2 コア探究

1学期

- ・テーマ設定
- ・3000字論文

課題設定・
情報収集が
重要

2学期

- ・鹿島建設
- ・思考ツール

構想力が
重要

3学期

- ・チョコプロ
- ・校外学習企画(コロナ中止)

発想力
実践力




高2コア探究（目標と内容）

目標 「自分ごととなる課題を設定する力を伸ばす」

A、長い時間かけて明らかにしたい自分の研究課題を設定することができる。 ← **後半！**

B、実社会での経験もふまえ、自らが解決すべき（解決したい）社会課題や研究課題を設定することができる。 ← **前半！**

社会との関わりで研究テーマや進路が見えてくる！（そうなる取り組みにする！）




課題研究 = 世界に1つしかない自分だけの作品

↓

自分の進路・学問につながる！

↓


自分が生涯かけて取り組みたい学問やプロジェクト




学習内容 ② 探究のプロセスを学ぶ

課題の設定 → 情報収集 → 整理・分析 → まとめ・表現 → 課題解決


TRY 探究 “探究するチカラ”を身につける




論文作成とプロジェクト



高校3年生の取り組み



可能性は無限大！
やりたいことをプロジェクトとして実施！？



宇治の学び方がこれからの日本のモデル！？



なぜコア探究？コアとは？ついた力は？

★なぜコアの授業があると思いますか？

コアとは何ですか？

- ・自己形成するもの。学んだことを自分でどう生かすかが問われる
- ・すべてにつながるから
- ・他教科で学べないから
- ・将来大切なことを学ぶ
- ・答えのない問いに取り組む力をつける

★ついた力

- ・課題発見、課題設定をする力
- ・情報収集、調べる力
- ・課題解決力
- ・自分のことを考える力
- ・問いを立て考える力
- ・実践力



コア探究 最後の問い

改めて、聞きます！

①私たちは何を学び、どんな力を
つけたのだろうか？

②なぜコア探究は「コア」なのだろうか？



1年生から3年生まで同じ問いを聞いてもほしい同じ答えになっ
ていた。大切なのは、深さ！



コアを通して(酒井先生から)

見たい景色は？

登りたい山は自分にしか決められない

結局は自分次第

すべての条件がそろうことはない。
社会には理不尽なことがある。
そんな現実の中で自分から動けるか。

…これは先生たちにも当てはまること。

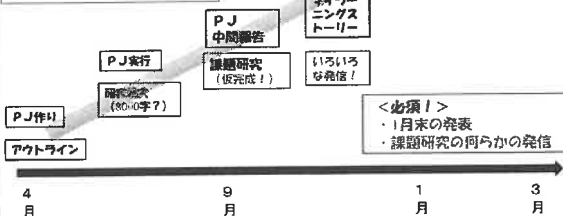


<1年間の予定>

シラバスも見ること！

<今年度作成する成果物>

- ・研究論文(8000文字以上)
or PJ+報告書
- ・ポスターなど
- ・マイラーニングストーリー



岡本先生から一言

- ・3年間コアを担当して
- ・みんなへのメッセージなど



一生をかけて解く問いを見つけましょう

・世界の名だたる才人が一生を掛けるに値する課題を発見する転機のタイミングは統計的に19歳前後に集中する

・日常に小さな疑問を携帯することを癖にしてほしい
→どこかで答えの糸口が見つかることや、疑問同士が連結することもある

R

最後に

R

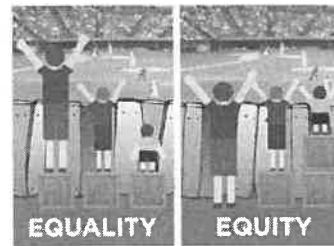
「分かった」を妥協していませんか？

・ちゃんと「分からない」って認めることができますか？

・「分かる」＝「思考は止まる」ということです

R

今の日本は・・・



平等：それぞれの状況を鑑みずに全員に対して同じ待遇をする
公正：それぞれの状況に応じて待遇を変える

R

知識とは何でしょうか？

ネットで検索すれば知りたい情報が得られる時代に、知識を習得することの意義とは何だと考えますか？

A.「ネットで検索すれば知りたい情報が得られる」と無邪気に信じられるのは、知識の大海の深さと広がりをご存じないからだと思います。

一独学大全 絶対に「学ぶこと」をあきらめたくない人のための55の技法
ダイヤモンド社 読書強一

R

コア探究を通しては・・・

自分で考え、
自分で判断し、
自分で行動する



思考力は、OECD（経済協力開発機構）ではかなり下位にいる。
APU学長の出口治明さんは、思い込みや固定観念にとらわれると、それらに縛られて常識を疑うことができなくなり、物事の本質を見極める

R



「この国は変わらないといけない！」
希望ある未来を後世のために！

R

今の世界情勢からみて…

分断と対立 → 支え合い、分かり合う
「共生の社会」

対話と協働が必須

R

今やるべきことをやろう！
希望ある未来のために！
Now is the chance!

R

協働は面倒である。しかし…

「早く行きたければ一人で行け、遠くへ行きたければみんなで行け」
(If you want to go fast, go alone. If you want to go far, go together.)

アフリカの謎
こたえない学校 代表: 藤原さと

SDGsの17番目の目標「パートナーシップで目標を達成しよう」

R

アンケートに回答してください。

R

My learning story

3年*組*番****

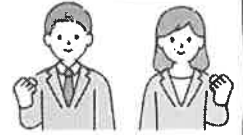
将来なりたい人物像

- ・人に感謝できる人
- ・自分の考えを持ち、発信できる人



将来目指す職業

→ホテルスタッフ



私が目指す将来像

自分で考えたことを行動に積極的に移せる人

大学で頑張りたいことBEST3

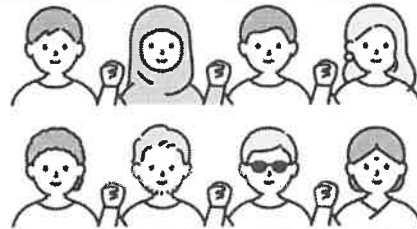


1 英語の習得

2 留学生と友達になる

3 異文化理解の力

グローバルな視点で考える



成長したことBEST5



1 能動的になったこと

2 行動力

3 計画性

4 後輩指導

5 周りを見る力

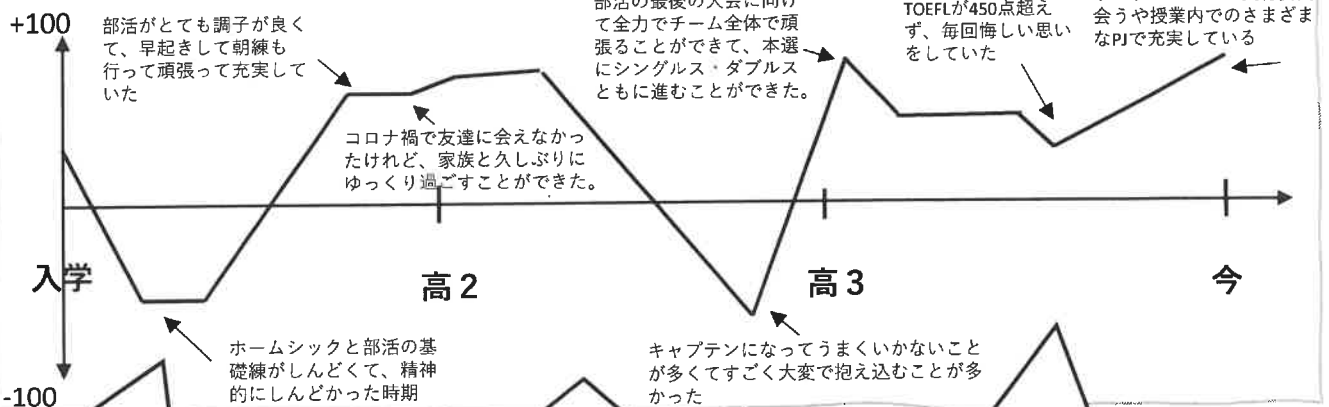
挑戦することに怖気なくなった。
思い切って一歩目を踏み出すことを学んだ。

残った課題

様々な視点で考える

原因

同じ視点からしか考えられていない。固定概念にとらわれている



①高校1年生

高校に夢を持って京都に一人やってきたけど、ホームシックになった。部活動の最初のトレーニングがとても大変だった。一生懸命やるほど楽しいし負けたら悔しいことを実感した。

②高校2年生

コロナの自粛期間から始まり、友達と会えないのはさみしかったけれど、家族と久しぶりに長くゆっくり過ごすことができてとてもいい時間を過ごすことができた。しかし、部活動のキャプテンがしんどかった。

③高校3年生

TOEFL430点超えることができた。コアのPJやワンフェスユース実行委員会を行い、充実した生活を送ることができた。教科以外で吸収できることがたくさんあって楽しい

日本の高校で、宗教に基づく知識を学ぶ機会を設けるべきか。

3年*組*番***

要旨

日本の高校で宗教について知る時間を設けるべきだ。

宗教の知識を得ることで、教養や考え方が身につき、高校の教科と宗教を関連付けることで、
 ①異文化理解が可能になる
 ②自分の視点を広げられる ためである。



序論

宗教の定義: 「超自然的な(人間の力が及ばない)支配力、つまり宇宙の創造者や支配者(神)の存在を信じること。」
 日本人=無宗教? ← 様々な宗教文化を受け入れている



問題提起 無宗教→宗教に対する関心が低い
 ↓
 宗教の価値観を無視し
 宗教を持つ人を傷つける恐れがある

仮説

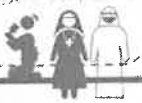
宗教を起源とする習慣や文化を知る時間を高校で設けるべき

意義

- ①宗教を持つ人との交流を円滑にする
- ②個人の考え方を発展させる

取り上げる宗教

- 世界の宗教▶キリスト教・仏教・イスラム教+ユダヤ教
- 日本の宗教▶神道



研究結果

宗教に基づく教養を得る意義

対外的なメリット

異なる国に住む人・宗教を持つ人との相互理解

①宗教における習慣などが原因で起きるトラブルを避ける

・アウンウンやイスラム教に帰属してイスラム教の国で、異教徒の身分でいた経験がある
 ・「宗教的な」に「宗教的」や「宗教的」を区別する

②お互いが持つ文化・価値観を深く知る

「宗教を理解する上で大事なものは、…それが現代以前の社会では当たり前だったことを押さえておくことだ。宗教の影響は現代においても強い。→宗教を知れば、海外の人々との交流がスムーズになる」

対内的なメリット

自分自身が、問題や精神的な苦痛と向き合う上でヒントになるような考え方を得る

①宗教を高校に通う学生にインタビューすると…
 「視野が広がった」「つらい時、聖書が助けになった」「心のよりどころになった」
 →宗教の教義が高校生にとって精神的な支えに

②それぞれの宗教が持つ経典の教訓的要素

(例:キリスト教「新約聖書」ユダヤ教「タルムード」)

問題解決・メンタルケアに役立つのではない。

提案: 従来の高校の教科の中で宗教・宗教的文化を学ぶ。

例:

歴史

- ▶歴史的な出来事×宗教
十字軍 / 宗教改革 / ルネサンス
- ▶宗教的な規則・習慣が生まれた背景
・イスラム教の一人多妻制…戦争未亡人や孤児を救うために生まれた制度

現代社会

- ▶国際情勢を理解しやすくなる
- ▶社会問題×宗教
人々の精神の根底に宗教がある
→宗教が原因の民族対立、現地の人々の宗教を尊重した上での解決策を提示

芸術

- ▶宗教芸術を鑑賞する
キリスト教…聖書の物語を理解する
例:「最後の晩餐」「落穂拾い」「受胎告知」
イスラム教…偶像崇拝が禁止されている
→コーランやアラベスクの美しい模様を注目

家庭科

- ▶食文化×宗教
実際にハラルフードを作り、試食する
- ▶宗教上の理由で食べてはいけないもの×「制限、不自由」→「文化として食べないだけ、選択」

よって、日本の高校生が宗教について知ることに意義がある。

結論

宗教に基づく知識を得る機会を設けるべき

- ①宗教が原因のトラブルを減らし、海外の(宗教を持つ)人と良好な関係を築くため
- ②個人の考えを深める・広げるため
→高校の幅広い教科と結び付け、多角的に宗教を知る

課題

- ▶実現を可能にするためにはどうすればいいのか詳細に決まっていない
どれほどの深度を想定するか、高校の教員が宗教を教えるにはどのような下準備が変わかなどを検討する必要がある。
- ▶宗教的教養・マナーを学ぶことだけに留まり、信仰そのものを掘り下げられない

主な参考文献:

出口治明『哲学と宗教全史』ダイヤモンド社 2019年 p11-13,243-244/山中俊之『ビジネスエリートに必須教養 世界5大宗教入門』ダイヤモンド社 2019年 p2,7,31,164/小村明子『日本とイスラムが出会うとき その歴史と可能性』株式会社現代書館 2015年 p105,209,213/中村圭志『宗教がわからない人はこの4原則を知らない』<https://toyokeizai.net/articles/-/334588> (参照2020/09/16)/本多泰洋『宗教系高校の生徒の宗教・倫理に関する意識調査』https://www.teikyo-ic.ac.jp/app/wp-content/uploads/2018/08/journal2010_25_33.pdf (参照2020/11/19)

2021年度生徒のテーマ一覧「PJ等」はプロジェクトまたは起業プラン作成

(論文は1人、PJ等は3人程度のチームで実施したものが多く)

種類	課題研究のテーマ (タイトル)
PJ等	ペットの殺処分を0に
PJ等	画期的な見守りデバイス “Radiance stick”
PJ等	フェアトレード商品を知っていますか？
PJ等	improve skills! (仮)
PJ等	韓国へのイメージ改善
PJ等	子ども食堂×活動 (フードロス) (学間)
PJ等	ロゴロックで無名企業、デザイナー(アーティスト)を大発掘プロジェクト
PJ等	Veggies
PJ等	食堂から世界へ
PJ等	目で見て学ぶSDGs
PJ等	目で見て学ぶSDGs
PJ等	みなもとランタン
PJ等	すべての人に自分らしさを
PJ等	PC1台で無限の可能性を
PJ等	TADDA
PJ等	うヒラボ
PJ等	ブランドを作り、服を売る (日本文化継承)
PJ等	SDGs SDCs
PJ等	廃棄物に灯を
PJ等	宇治市植物公園を魅力化するには？
PJ等	子どもの体験教室
PJ等	子どもスマイルプロジェクト
PJ等	日韓共同プロジェクト
PJ等	宇治市活性化プロジェクト
PJ等	スポーツの面白さを伝える
PJ等	元子ども兵士架け橋プロジェクト
PJ等	奈良娘～奈良市活性化～
PJ等	性への理解のある社会を実現するには
PJ等	日韓交流
PJ等	関西の動物殺処分ゼロを目指す
論文	今後、コンビニ業界は成長できるのか
論文	バドミントンにおいて右利きは左利きにするべきか
論文	TCKのために学校制度を変えるべきか
論文	体脂肪率と走る事は関係があるか
論文	大阪府の動物殺処分を減らすために高校生にできることはあるか
論文	コミュニケーションスキルを向上させる方法として読書は有効なのか
論文	早期英語学習は日本の教育に導入するべきか。
論文	NY州のマリファナ合法化が日本経済を救う？
論文	長距離走で走り方を変えれば誰でも記録は伸ばせるのか
論文	日本の義務教育にテストは必要なのか。
論文	高校生のSNS依存を減少させるためには「いいね」機能を撤廃すべきか
論文	介護付き有料老人ホームに犬を導入すべきか。
論文	eスポーツの発展と人間力
論文	スポーツ選手にメンタルプロジェクト参加を義務づけるべきか
論文	野球における万人受けするプレッシャーに打ち勝つ秘策
論文	アドラー心理学を用いて不登校児を減らすことは出来るのか。
論文	陸上長距離女子選手の疲労骨折は食生活の改善で防止できるのか
論文	日韓関係の修復は可能か
論文	家族内の結婚を認めるべきか
論文	「ドギーバッグ」を利用することで食品ロスは減らせるのか。
論文	アイドルに卒業は必要か
論文	阪神タイガースはコロナ禍の不況をどう乗り越えるか
論文	レジ袋の有料化はプラスチックの削減に有効か
論文	アジア人はATPランキング1位になれないのか

種類	課題研究のテーマ (タイトル)
論文	コミュニケーション能力向上に関西の話し術は有効か
論文	ゴキブリは人類にとって有害な存在なのか
論文	若者の食品ロスに対する意識向上
論文	空港の非航空系収入を増やすことは可能か
論文	全日の高校生に介護実習は必要か。
論文	デートDVの被害者を救うためには
論文	日本は安楽死制度を取り入れるべきか
論文	テスト勉強を計画的に進めるための効果的な方法は何か
論文	左利きはスポーツにおいて不利なのか
論文	将来高校生は田舎へ移住すべきか
論文	野球肘を防ぐ秘策はあるのか
論文	ゲーム依存者を社会復帰させて、より良い社会を作ることはできるのか
論文	少年法の対象年齢引き下げは不適切である
論文	社会派映画を普及されるべきか
論文	小学校1・2年生の生活科にLGBTQ+を取り入れるべきか
論文	刺青への偏見は無くなるのか
論文	日本に聴院内閣制は適しているか
論文	少年非行は家庭環境と関係あるのか
論文	教室の壁の色は青色にするべきか
論文	京都高校サッカーにおいてホーム&アウェイを平等にすることは日本サッカーの発展につながるか
論文	日本の音楽は海外でも需要があるのか
論文	タンスの肥やしをなくすために、FRCの建設は効果的か
論文	子どもは金融教育は必要か
論文	「過疎化×スポーツビジネス」
論文	高校生に日本の伝統芸能に触れてもらうためには授業に取り入れるべきか。
論文	コロナ禍でのSNSを利用した異文化交流
論文	人生において、悩むことは必要であるのか
論文	日本を迫りくる食糧難の魔の手から守るには
論文	ドクターヘリの夜間運航は実現可能か
論文	ゲームのやりすぎによる心身への影響を抑えるためには国からの制限を設けるべきか。
論文	宿題が与えるこれからの教育
論文	ピッチャーにおける怪我をしないテイクバックの取り方について
論文	現代の日本において死刑制度は必要か否か
論文	今後ボーカロイドの世界的な更なる発展は可能か
論文	20年以上連載が続いている漫画に共通点はあるのか
論文	人間は生態系の頂点であるべきか
論文	B. Leagueが将来日本バスケットを背負っていきけるのか。
論文	無から有は生まれるのか？ (宇宙創生と関連させて)
論文	不登校児童生徒の治療に音楽は効果があるのか
論文	企業や個人を狙うサイバー攻撃やウイルスの脅威とホワイトハッカーの存在
論文	四国新幹線は四国の発展につながるか？
論文	『現代』アートの概念思想 日韓関係改善の可能性(仮)
論文	高校サッカーの試合にVARは必要か。
論文	マスメディアの情報はどの程度信じるべきなのか -報道被害を減らすためには-
論文	立命館宇治高等学校はオンライン学習を行っていくべきか
論文	アメフトの本場NFLで日本人は活躍することはできるのか
論文	スポーツをするときに応援されることの効果
論文	テクノロジーが発達した現代社会において、高校生が数学や物理学を学ぶ必要はあるのか。
論文	SNSの実名化は私たちにとって必要なのか
論文	景観条例は今の奈良市に必要か
論文	スポーツ事業の拡大は地域活性化に有効か
論文	オリンピック競技に野球が復活すれば野球離れは解消されるのか
論文	コンビニエンスストアはこれからの社会で生き残っていくのか
論文	テレビニュースは絶対に見るな！

論文	バイトテロをなくすためには
論文	多くの日本人は中国に悪いイメージを持っているが果たしてそうなのか？
論文	プラスチック汚染について
論文	映画を見ることで中高生の英語力の向上に効果はあるのか？
論文	先進国における食品ロス問題は解決すべきか。
論文	英語上達のためには洋画を見るべきか。
論文	全ての性別の人たちが自分らしく生きることではできるのか？
論文	日本人の平均身長が伸びたのは食の洋風化が要因か
論文	ケガをしない為にはストレッチが一番重要なのか？
論文	減量するとパフォーマンスは落ちるのか？
論文	日本スポーツが強くなるには海外のスポーツ文化を取り入れるべきか
論文	Instagramにおける承認欲求は人間関係を良くしたか。
論文	感染症発生を0にすることはできるのか
論文	野球で打席に入った時、ルーティンをした時としなかった時で結果に差は出るか
論文	生活の改善によって疲労骨折を防げるか
論文	応援がもたらす影響、そしてこれからのスポーツのあり方
論文	コロナ禍において、私立学校でクラウドファンディングをすることに経済効果はあるのか
論文	AIなどの人工知能が発達して美容師の仕事はなくなるのか
論文	羽田空港における新ルートでの飛行は中止すべきか
論文	宇治市の人口増加の促進するためには宇治市をどのように広めるべきか
論文	淀城の歴史的経緯に視点を当てた淀の町の活性化
論文	若者の本離れに電子書籍は有効か
論文	紙の本は生き残るのか
論文	サッカープレイ中に人と当たった時のプレを少なくするためには、体幹トレーニングが重要か？
論文	野球の競技人口減少対策と地域活性化
論文	ポジティブ思考により意識を変えることで、現状はよりよくなるのか
論文	ALS患者は生活苦を逃られるか
論文	「子どもの貧困」を減らすために高校生ができることはあるか
論文	サッカーを通して、世界の貧困を改善することは可能なのか
論文	「孤食」を減らすことはできるのか
論文	野球用品業界への新規参入を成功させることは可能なのか
論文	窮地に笑顔は必要か
論文	筋肉をつけると身長が伸びなくなるのか
論文	クラシックバレエを普及させるためには
論文	日本の食品ロス問題を解決する方法はあるか
論文	ゾーンには意図的に入ることができるのか。
論文	色から考えるジェンダー
論文	クラスで好きなアニメを話し合える日が来るか
論文	40～60代のストレスが原因で起こるうつ病は笑いで治るのか
論文	食事スタイルの変化によって人間関係にも変化がもたらされているのか
論文	日本に旅行した人の幸福度は上がるのか ～世界幸福度報告とコロナ禍から見た、これからの日本旅行～
論文	テレビ VS SNS
論文	Jリーグの育成プログラムを学校教育における課外活動に活かすことはできるのか
論文	理論を知るだけで釣りはうまくなるのか
論文	フットサルの知名度を上げるにはどのような戦略が最適か
論文	本当に肉は食べるべきなのか
論文	東京オリンピックは開催すべきか
論文	高校大学の無償化で金銭面での子どもの相対的貧困は解消できるか
論文	コロナの問題で若者がターゲットにされない方法はあるのか
論文	取り調べ以外の方法で海賊版利用者を減らすにはどうしたら良いか
論文	体格と収入の関係性
論文	SNSの誹謗中傷はどのようにすれば0になるのか
論文	高校生に向けてのデザイン教育

論文	日韓共同ドラマを作成するべきか
論文	日本において、現在の公訴時効制度は必要か？
論文	AIによって描かれた絵画は人間が描いた絵画を超えることができるのか
論文	Sdgs関連の環境問題
論文	スポーツにビジョントレーニングは必要か
論文	現代の畳の活用法～未来のTATAMI～
論文	食物アレルギーの理解は深まってきているのではないかと？
論文	米国における黒人の臨床試験参加と健康保険制度の関係について
論文	片付けの効率化は断捨離をすることで実現できるか
論文	どうすれば高校生は落語を聞くようになるのか
論文	虫嫌いは虫を克服出来るのか？
論文	新しいブームを生み出すことはできるのか??
論文	高校生には筋トレをすることが必要か
論文	日本の学生は宗教教育を受けるべきか。
論文	チーズの体に与える悪影響を減らす方法とは
論文	正しく考えることについて
論文	日本代表が世界一になるに必要なのは強いストライカーか
論文	貧困問題について興味があるので、その分野
論文	SNS解禁から見るジャーニーズ事務所のありかた
論文	映画館の集客を向上させるには
論文	日本のホテルは世界に誇れるものか
論文	コロナ禍で自衛警察が生まれたのはなぜか
論文	「高校生のための自己肯定向上方法」
論文	外国人労働者は今後の日本に必要なのか？
論文	若者の読書離れは本当に進んでいるのか
論文	空き家に住むのは幸せにつながるのか
論文	蚊は絶滅させるべきか
論文	企業と消費者は対話すべきか～プライバシーを守るために～
論文	働き方改革で日本の労働者の自殺者は減少するのか
論文	インターネットといじめの関係性について～ネット社会でいじめを減少させるには～
論文	人を疑う心を持って詐欺被害はなくなるのか。
論文	日本のIT企業は世界一になれるのか。
論文	東宝ミュージカルを盛り上げるために必要なことは何か
論文	人々とスマホの向き合い方は今後変化するか
論文	表現と表現の組み合わせは娯楽の発展に有効であるか
論文	高校野球において変則投手の育成をやめるべきか
論文	AIと人間は共存することができるのか
論文	ゲーム規制はするべきか～個人の自由の定義～
論文	eスポーツをオリンピックに採用すべきか
論文	物事を簡潔かつ魅力的に伝えるためにはアニメーションを利用すべきか
論文	教育現場でAIと人間は社会で共存できるのか。
論文	オーバーツーリズムについて
論文	役者は若者の人生に影響を与えているのか？
論文	年功序列制度は日本に適しているか
論文	コロナウイルスはなぜ技術を進ませさせるのか
論文	陸上競技における応援が選手に与える影響
論文	習字をやるなら幼児の頃から始めるべきか
論文	高校生にとって制服購入自由化は必要か
論文	未利用魚をなくすには
論文	そろばんをすることで認知症は改善できるのか？
論文	手話の普及をどのように進めるべきか
論文	日本の貧困について

1、全体的に

今年度は最終成果物を論文ではなく、プロジェクトや起業プラン（+報告書）も OK ということにした。起業プランは中小企業庁の起業家教育実践校として、外部の力も借りながら進めた。これは昨年度総括をふまえての変更である。生徒がマイテーマを探究する、生産者として社会を創るという部分はすべてに共通している。結果的にプロジェクトや起業プランは学校外とのつながりも作りやすく、そのことで生徒も大きく成長した。立宇治らしいということも多くの担当者が感じていることである。

2、今後検討する重要なポイント

①教員体制、教員の学びと成長

- ・責任者としての担当は必要だが、指導が固定化しない仕組みづくりが重要。「みんなで生徒を見る」とはよく言われる言葉だが、コア探究はこれを具現化し、生徒にも伝えておくことが必要。同時に、教員が入る教室を交代する日を設けるなど、意図的に教員が入れ替わる仕組みづくりも重要だろう。
- ・教員研修はもちろん、1 教室 2 人程度の教員を配置する際にベテランと若手を一緒にするなど、一緒に担当する中でお互いに学びあえるような設計も重要。コア探究指導が教員の学びと成長につながる工夫はこれからも追求することが必要。

②学びの集大成、カリキュラムの核としてのコアになるために

- ・学校の外とつながることが生徒にとって大きな学びとなることが分かった。論文においてもコンテストに出す、他校と同じ場の発表会などに参加する、専門家のお話を聞くなど外とつながる仕組みづくりが必要。
- ・上記に関わって、外部とのネットワークを「学校」としてもっておく必要がある。
- ・コアになるという点では、3 年間（6 年間）の流れを教員が知ることも重要。コアが特別な授業でなく、日常の延長であること、論文を仕上げるのがコアではないことなど、共通認識としていくことは多い。

③その他

- ・大人が入らなくていけないことについて事前にしっかり提示する。例えば、外部へ連絡を取る時は担当教員に報告してから。お金が発生する時は教員把握し、場合によっては教員会議など。一方ですべてを学校丸抱えにすべきでないし、生徒引率などは最小限にすることが重要。このあたりはケースバイケースだが、事例を蓄積する必要がある。
- ・プロジェクト等実際に費用が掛かるものについて、一定の援助をできる仕組みを検討する必要がある。
- ・実験、ものづくり（プログラミング含む）など理系的なものも選択肢に入れたほうが良い。

4、コア探究Ⅲの運用について（細かなこと含む）

○継続すべきこと

- ・PJ や起業プラン作成も認める形（むしろ理系的なものを入れてもいいのでは？）
- ・アウトプットを適宜織り込んだ運用（発表で次に進み、個別指導もしやすくなる）。
→定期的な発表会、学年全体の中間発表、最後の発表など
- ・授業時間内なるべく完結する指導形態と毎時間の作業指示を全体にすること。
→ZOOM による全体指導と、各担当者による小人数指導の使い分け。
- ・担当者会議を定期的で開催し、指導事項を共有する。
- ・指導担当者は、経験者と未経験者をバランス良く配置。
- ・論文も起業プランもプロジェクトも、しっかりした情報収集が重要である共通性の理解。図書室も利用させる。

△検討すべきこと

- ・各パート（論文・PJ・企業・実験？）に責任者を置き、責任者は担当生徒を少し少なくするなどの工夫。
- ×次年度改善すること
- ・PJ等：大人が入らないといけないことへの事前指導。同時に自分たちで進めるという意識付け。
- ・論文：年度はじめに（共通した？）論文を読ませる（生徒の論文理解、イメージ強化にもつながる）。
外とつながる仕掛けを考える、論文の体裁を早めに提示（当該学年の国語の指導を尊重）
- ・冬休み明けの仕上げの時期に担当者が生徒に指導できる時間の確保

5、よりよくするために必要なアイデア

- ・資料をどう集め、どのように整理しておくのか、ということを説明する時間があってもよいのではないか。（1学期はほぼ課題設定とそのためのリサーチに使わせてもよいくらいの覚悟を持ってよい）
- ・指導教員のシャッフル（この意見は多数あり）
- ・学年全体をいくつかの時間帯に分けて、相互干渉ができる機会があれば良いと思う。
- ・論文執筆ルールを学年全体で統一したい。
（おそらく当該学年の国語科が論述課題に取り組むときの体裁ルールを定めていると思うので、それをベースにコアの論文執筆ルールを作ってもらえると、指導に統一性がある生徒の混乱が少なくて済む。）
- ・授業時間を論文を書く時間に充てるのは勿体ないような気がしました。もっと、気付きを与える時間としても良いかと思えます。（講演会、大学教授からの論文指導、実際の大学生の学び方の現実を知る企画、Officeソフトの使い方講座など外発的刺激を与え続けるなど）。外部の力を借りずとも、アドバイスしてもらおう担当教員を変えたり、作業・発表するグループを変えるなどして、論文をブラッシュアップする時間にできる。
- ・（これはあまり現実的でないかもしれないが）、担当教員も生徒と一緒に半年かけて論文を書いていくと良い研修になるだろう。特に若手教員は今後の成長を考えるとこのような挑戦があってもよい。
- ・何とか、論文パートの生徒たちが外とつながるような仕組みを作れないものかと考えております。
- ・プロジェクト2期生からは先輩のプロジェクトをより高めるために先輩たちのプロジェクトメンバーとして動きながらそこで課題を見つけ自分たちのコア探究の課題としていく選択肢があってもいいのではないかな？
- ・テーマを「立命館大学・APUのどの学部や学科で学べるか」という視点で考えさせれば、将来の見通しにつながるキャリア教育にもなる。また、指導する際の指針となる。今回、プロジェクトをやった生徒が「活動をする中で経営の難しさをしったので、経営学部でもっとしっかり経営について学びたい」といっていたが、これが理想形だと思う。

6、教員にとっての気づきや学び、必要だったフォローなど

以下は教員の総括から。

- ・「無理」ということは自分が勝手に決めつけたものであるということ。「動けば変わる」とにかく自分を信じて動くことの大切さを教えてもらった。
- ・外部情報をもっと自分が知っておけば、もっと違う広がりがあったかと思う。
- ・教育分野に内容（「宿題のあり方」「不登校生徒問題」など）は、生徒目線の考えなど興味深かったです。
- ・論文パートについても、（状況がゆるせば、）外とのつながりを増やしていくことが必要ではないか。
- ・様々なから視点のアプローチがたくさん見受けられたこと、一人ひとりの振り返りの中で、自分自身の「形」にしたものに対する苦労や愛着などが見受けられた。
- ・どんなことにでも存在する「当たり前」という概念を、生徒と一緒に考えて壊すという行為に爽快感を覚えました。機知に富んだ答えを出してくる生徒の可能性に感化されましたし、自分自身の考えや取り組みにも少なからず前向きな影響を与えてもらいました。

・実際に「行動する」ことで輝く生徒がいることを知った。論文指導とはまた違った頭と指導法を使った気がする。偶然だが2年前の現代社会・今年度のグローバルシティズンシップとの学びの繋がりがあったことは嬉しかった。授業では「案」だったものをコア探究で実現させるというまさに理想とする「コア」の学びにつながったのかな…と思う

(以下は若手から)

- ・論文指導の研修を増やしてほしい(年2, 3回程度?)。・自分自身が論文の書き方・指導の勉強が必要
- ・教員経験や知識で指導力に差が出るのが身にしみて感じました。
- ・私自身初めてのことであって、担当生徒にうまくフィードバックできていなかった自覚があります。個人的には、授業準備にも追われる中ですべての論文を読むのは時間を要することでした。生徒の論文の添削を通して、自分自身の論文への考え方を見つめなおせましたし、更新することができたのでよい経験になった。

7、その他(本校の教育として重要なこと)

以下は総括での担当者コメント。取り組む上で大切になるだろう視点と思うもの。

・「論文を書くこと＝コア」のように生徒の意識が流れていき、コアの学びの目標が何だったのかを見失う感じになっていたように感じた。「問いを立てて論理的に考察する」ことや「問題解決に結びつけていく」ための「思考の整理と表現」という、IBで言うところの本来の TOK・CAS・EE の関係が薄れていたように写った。

・コアの授業が特別なものではなく、日頃の教科の授業の延長であることの意識を生徒だけでなく教員ももって授業に臨むべきであると感じました。

・プロジェクト、起業型については、今後 I G コースの大きな柱となる。生徒自身が、プロジェクトを『自分事』となり取り組んだ結果が、多くの成果につながった。初めから『賞』狙いになると違うことになるかと思います。大切なマインドの部分今年度こうしてつくっていくことができたかと思います。

・担任やコア担当者だけでなく、3年間のコアカリキュラムを全教員が理解し、進めていく必要がありました。・自分自身、受験で立命に入っているの、大学でのレポートが大変だったことをおぼえています。一年間指導をしてきて、彼らの、高校在学中に論文を書くというこの経験は大変なアドバンテージであると感じます。

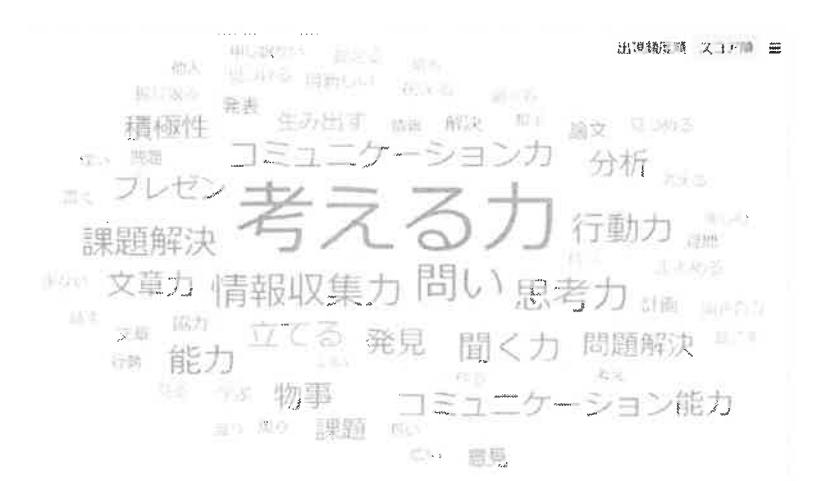
・単純学力では敵わない付属校生徒の強みを鍛える授業だなあとはつくづく思いました。

・秋くらいの段階で、各担当の中での優秀候補の論文交流をしても面白いだろう。あ〜、あそこのゼミではこんな論文書く生徒がいるのかあ〜的な交流会があっても面白い。ただ、働き方改革で勤務の制約が益々強くなりこういうことは推奨されないのだろうが。

・生徒への関わり方。教員側が口を出しすぎると絶対にうまくいかない。

・外に出る情報は輝かしい受賞歴や販売実績などですがその過程はものすごく地味な作業や打ち合わせの数々。

<3年間のコア探究でついた力(生徒・テキストマイニング)>



名詞	スコア
考える力	338.97
能力	54.73
発見	34.95
課題	20.42
問い	116.34
行動力	56.22
発表	9.03
発見	10.80
問題	2.50
思考力	81.63
分析	29.09
プレゼン	25.51
物事	27.66
協力	7.74
解決	5.96

コース等	学年	単位数	教科	科目	検定教科書	副教材				
IG	2	1	総合	コア探究Ⅱ	×	進路探究ワーク 2				
到達目標	<p>【自分ごととなる課題を設定する力の向上】キャリア×研究テーマ探究</p> <p>①長い時間かけて明らかにしたい自分の研究課題を1つ設定することができる。</p> <p>②実社会での経験もふまえ、自分が解決すべき（解消したい）社会課題や研究課題を設定することができる。</p> <p>上記①②達成のために、論文作成の方法・進路探究・チョコプロジェクトを実施する。</p>									
評価の観点	①知識・技能		②思考・判断・表現		③主体的に学習に取り組む態度		定期考査実施			
	<ul style="list-style-type: none"> 論文を書く基本でない技能を身につける 希望する進路先についての基本的な情報や、進路の選び方を知る。 プロジェクトについてPDCA サイクルをまわす方法を知る。 		<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味あることから論文テーマを設定する。 自分の将来について考え、希望する進路先を判断することができる。 プロジェクトの内容を考えることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 自分事となり、来年度1年間取り組む課題を設定しようとする。 様々なことに積極的に取り組む。 		中間	期末	課題点(%)	
	1 学期		2 学期		3 学期		年間課題点平均(%)			
評価の方法	授業で課すアウトプット課題、学びの成果をまとめたものを見て総合的に評価する。		授業で課すアウトプット課題、学びの成果をまとめたものを見て総合的に評価する。		授業で課すアウトプット課題、学びの成果をまとめたものを見て総合的に評価する。					
期間	時間数	学習項目			学習到達目標			評価方法		
1 学期	中間まで	6	「自分の興味から3000文字論文を仕上げる」 <ul style="list-style-type: none"> テーマ決め 仮説を考える アウトライン作成と中間発表 			<ul style="list-style-type: none"> コア探究Ⅱで学ぶことを理解する。 自分の興味関心を深く探究し、文章にまとめる。 論文の書き方について理解する。 何らかのコンクールに応募する 			<ul style="list-style-type: none"> 3000文字論文 	
	期末	5	<ul style="list-style-type: none"> ツッコミシート 体裁整え コンクールへの挑戦 							
2 学期	中間まで	7	<進路探究> <ul style="list-style-type: none"> 進路やキャリアを考える 学問かるた 学びたいこと→学問・学部 希望学部に関するテーマ設定 			<ul style="list-style-type: none"> 自分の進路について探求し、進みたい学部に関する研究テーマを設定する。 			<ul style="list-style-type: none"> 進路探究レポート(3学期にLHRで実施) 	
	期末まで	6	<チョコプロジェクト> <ul style="list-style-type: none"> 1回目のPDCA 2回目のPDCA 発表 			<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味関心から、プロジェクトを立てて、行動・検証し、発表する。 取り組んだプロジェクトから研究テーマを再設定する。。 			<ul style="list-style-type: none"> チョコプロジェクト 	
3 学期	期末まで	7	<テーマ設定> <ul style="list-style-type: none"> チョコプロからのテーマ設定 テーマを考える まとめ 			<ul style="list-style-type: none"> 1年間学んだことを元に、3年生で取り組む論文やプロジェクトを決定する。 			<ul style="list-style-type: none"> 自分マニフェストと口頭試問 	
備考	なお高3で取り組む研究課題を設定し、それを含んだ自分マニフェストを作成して、口頭試問に合格することが進級課題となる									

2021年度 コア探究 年間予定

<コア2年>金曜日1時間目

回数	月	日	分類	内容	備考
1	4	16	3000文字	オリテ/テーマ決め	
2		23	自分の興味	言葉の定義づけ	
		30			休日
OL	3	5	7	500~1000字(序論と現状)書く	
OL	4		14	仮説を考える	
	5		21	テーマ決め	
OL	6		28	各自作業	
	7	6	4	引用の仕方について	
	8		11	各自作業	
	9		18	各自作業	
	10		25	添削と読み合わせ	このあたりで2000文字
	7		2		
	11		9	チェックシート、各自作業	
	12		16	各自作業、夏課題確認	夏に完成
	13	9	3	発表会	
	14		10	キャリア 進路探究ワーク1	A具体的な進路ってどう考える?
	15		17	進路探究ワーク2	C学問かるた
	16		24	進路探究ワーク3	D学びたいこと→学部・学科
	17	10	1	キャリア×テーマ1	希望する学部→進路探究レポート
	18		8	キャリア×テーマ2	希望する学部→進路探究レポート
			15		テスト 10/9 科目選択
	19		22	チョコプロ My Willリスト作成	PM面談
	20		29	企画書作成、共有	
	21	11	5	1回目発表+振り返り	
	22		12	2回目企画作成→共有	
	23		19	発表とふりかえり、グループ代表決め	
			26		テスト
	24	12	3	クラス内発表	
	25		10	学年発表	12/4 探究活動
			17		体育祭
	26	1	14	チョコプロ×テーマ1	短縮40分
	27		21	→テーマ設定 チョコプロ×テーマ2	WWL発表会(PM)
	28		28	来年度のテーマを考える	PJ、論文共に考えさせたい
	29	2	4	来年度のテーマを考える	
			11		
			18		学術祭準備
	30		25	まとめ+テーマ決定	最終決定→口頭試問

★テーマ設定までの手順(方法)をキャリア⇒テーマ、チョコプロ⇒テーマの際に使えるようにする。

2022.02.02. 高校2年学年会

2022.02.08. 執行部会

2021年度 高校2年生対象 口頭試問 実施要項

1. 目的 1年間の振り返りと来年度の抱負や将来設計について語らせることによって高校3生になる自覚を促す。
2. 日時 3月3月9日(水)、10日(木)、14日(月)、15日(火) 9:30~12:30
*15日は再試問が必要な生徒のための予備日とする。
3. 場所 各ホームルーム教室
4. 対象 IGコースの高校2年生(ただし担任するホームルームではない)
5. 形式 教員2名が個人面接を行う。面接を行う教員は学年所属の教員が担当する。
6. 面談時間 一人10分程度(面談時間は実質8分程度)
7. 面接内容
 - 今年1年の振り返りと来年度の抱負を2分30秒~3分30秒で語らせる。
 - 教員はスピーチ内容と生徒が提出した「自分マニフェスト」に基づき質問を行う。
*面接中にメモ等を見ることはできない。
*スピーチの時間が既定の時間より大幅に下回ったり、上回ったりすれば再試問。
8. 合格基準
 - 面接前に「自分マニフェスト」を提出している。
 - 面接にふさわしい身だしなみ(服装、頭髪等)が出来ている。
 - スピーチの準備をしてきており、内容や言葉遣いが適切である。
 - 教員からの質問に的確に答えられた。
*不合格の場合は3月15日(火)に行う。
9. 口頭試問までの流れ
 - (1) 2月2日(水)の学年集会で口頭試問についての告知と「自分マニフェスト」を配布
 - (2) 2月14日(月)までに「自分マニフェスト」をClassiへ提出
 - (3) 2月28日(月)までに加筆・訂正をする

以上

問1. 私が今考えている人生で成し遂げたいこと、なりたい姿とは

（1年の時に思っていたこととの違いも含める）

人のためになることを行うことをしたり、人を引っ張ったりするような、そんな生き方をしたいです。一年生の時は、やり残したことがないと思えるような人生にしたい、という目標でした。どうすればそれを実感できるかと、この1年間考えた結果、人のためになるような生き方をしたいと思うようになりました。

問2. 問1であげた姿になるために必要な経験、知識、スキル、人との関わり方とは

成功をしている人、成功しようと取組みをしている人に話を聞くという経験が必要だと思います。なぜなら、成功している人は、人のためになることをして結果、成功していると考えるからです。

問3. 問1~2で挙げたことを達成するために次の計画を実行します！！

①18歳で高校を卒業するときには、次のことを実行し、達成しています。

+Rや講演会に積極的に参加します。立宇治にはそのチャンスがたくさんあると思います。その聞くという経験を通して、コア探求で企業プランの作成を行います。

②22歳（24歳）で大学を卒業するときには次のことを実行し、達成しています。

周りの人と価値観を共有でき、共存できるような人になります。そのために、授業以外にインターン、バイトなどを通して多くの人と関わる経験をし、その上で社会に出るということを達成します。

③30歳のときには次のことを実行し、達成しています。

周囲の人と協力して、しっかりと仕事ができる人になりたいです。30歳ともなれば後輩もできる年齢になると思います。後輩にも先輩にも気を配れる、そんな人になりたいです。そのためには様々な人と交流することが必要だと思います。人と交流し、協力し、人の意見を尊重しながら自分の意思も表すことで、よい仕事ができると考えます。

（1）進路に関わる今の自分

①希望進路（大学・学部）、それを選んだ理由（答えは省略）

②将来希望する仕事について（職業、こんな仕事をしたい、このような働き方をしたいなど）

（2）高校入学時から今までの自分

①高校入学時から自分はどんなことを目標にし、どんな成長をしてきたか

一年時には、内気になってしまっていた自分がいたということを反省点としてあげていました。高校2年生では、HR委員会に入ることができ、主体的に物事を行うことができていると感じています。

②高校2年間の偶然の出会いで今に大きく影響しているものは？（人、スポーツ、趣味、本、テレビ番組など）

コーチをしてくださっている〇〇コーチです。〇〇コーチから感じることは、やるからには本気でやる場所です。〇〇コーチのように何かやるのならば本気でやろうと心から思えるようになりました。

③（上の積み重ねの結果）自分の長所、特技、キャリア、好きな役割、残した成果はどんなものがありますか。

課題などの基礎的なことをしっかりと行えるところです。当たり前かも知れませんが、当たり前のことを当たり前でできていることが長所だと思います。好きな役割は、みんなで何かの事を成し遂げることが好きなので、まとめる役が好きです。

④今年の自分はどんな成長をしたか、また新しい環境で生活する中で気がついた自分の長所はなんですか。また明らかになった今後の課題は（ボランティア体験など学外のことも含む）

授業や課題で出た疑問点をみんなに聞くことができた事です。これまでは、嫌な気持ちをされたら嫌だなどという思いからこの事を避けていました。2年生になり、教科の難易度も上がってきたので、できた事だと思います。ここから新たに出てきた長所は、話すという段階を越えると比較的みんなとコミュニケーションを取ることができるということがわかりました。自分には言語化する能力がとても低いということがわかりました。この事を言いたくても、伝わらないということがありました。

(3) これからの自分

①良い偶然に出会うための行動、そのための態度や気持ちの持ち方について

ネガティブ思考ばかりではいけないということです。ネガティブだと心が閉ざされ、いろいろなことに挑戦できないからです。挑戦をすることができなければ、良い偶然には出会うことができないと考えています。常にポジティブに良い意味で挑戦的な姿勢にしていきたいです。

②来年度は人生の岐路を決定する大切な1年となります。今からはじめる行動と、それをする理由を書きなさい。

学部説明会や講演会にたくさん参加したいです。自分が気づいていないだけで、本当にしたいことがあるかもしれません。大学で本当にしたいことは何なのか。今のままのしたいことであるのかをはっきりしたいからです。

<今年のコア探究2をふりかえる>

①自分の関心のある分野からテーマを決めて3000字にまとめてもらいましたが、そこで気が付いたことは何かを書きなさい。

もっと調べることでその問題について知らないことをたくさん知ることができた。知っている問題と思っけていても知らないこともたくさんあると気付かされました。

②「進路探究ワーク」と「ムック」を使って新たに知ったことは何ですか。

知らない学問、学部がたくさんありました。また、知らない職業、あまり詳しく知らない職業もたくさんあるとおもいました。

③「志望理由書」を作成したことで気づいたことは何ですか。

一年に作成したもの比べてみると考えが変わっているものが多くあると思いました。特に生命科学部の志望理由です。1年の時は、バイオのことについて知りたいという理由だったのですが、今は、医療を通じて人の役に立ちたいということです。一年という短い期間でも自分の考えは変わるのだと思いました

④「ちょこプロ」を実行して気づいたことは何ですか。

1週間という短い期間でもプロジェクトをやり抜くという難しさを感じました。

⑤この1年間で高3の課題研究の発表、「キャリアナビ」(大学生、大学の先生)、「授業+R」(大学生、社会人)を聞き、考えたことは何ですか。具体的に書きなさい。

成功しているや取り組んでいる人を見るととても輝いているように見えました。また、とても話していて自身があるように見えたり、話し方もうまかったです。自分もそんな人になりたいです。

⑥コア探究2の学びは以下のそれぞれとどのようなつながりがありますか？

1) 教科学習

仕事、学部を調べることで、将来のことを考えることにつながっていると考えている。

2) クラブ・行事・自主活動

受け身ではなくて、主体的に考え、発言し、実行できるようになるというつながりがあると考えます。それは、チョコプロなどで現状を把握して主体的に実行というところにつながっていると考えます。

3) 自分の将来

プロジェクトをつくる手順を学ぶことによって、大学での学びや将来の仕事に役立つと考えています。

<高校2年生の自分を改めてふりかえる>

(1) (自分の役割)HR活動(委員会など)、クラブ、生徒会など今年度の所属したものを書きなさい。「クラブ1年生部長」など役職につけばそれも書きなさい。

(2) この1年を振り返って文章にしましょう。その際、以下の3つの視野を入れること。ふりかえりは最低600文字、決意は最低300文字書くこと。特に上限はありません。【教科学習】特に頑張った教科、不振教科の理由とそれに対する対策、1年間の成果など【特別活動】クラブやHR活動に関する1年間の成果、次年度に向けての決意など【その他】学外活動や生活習慣など

2021年度 高2 コア
課題研究論文【高2版】
テーマの決め方

課題研究（論文）を書く目的

- ・課題研究を書く目的は、究極的には世の中を変えること。基本として読み手の考えを変えること。
- ・テストで高得点をとっても世の中は変わらない。でも、君たちの論文がきっかけで世の中が変わるかもしれない。
- ・そのテーマについて「本気で実現したいか」という質問に、ためらいなく「はい」と答えられるかどうかがかぎとなる。

2020年度からコア探究で
要求される課題研究論文は
8000字（以上）

2年生STAGE I の到達目標

- ・自分の興味あることからテーマを設定できる。
- ・作文と論文の書き方の違いを知る。
- ・インターネット以外の資料を探せるようになる。
(図書室を効果的に利用しよう！)
- ・引用を適切に行うことができる。

なぜ課題研究（論文）を書くのか

- ・社会に出たときには、自分の考えをはっきり主張するために資料を使って、自分の考えを整理し、文章にまとめる力が要求される。
- ・この力はもちろん大学でも有効。
→そのためにアカデミックライティングをやっている！

論文の種類

論文には大きく分けて「報告型」と「論証型」がある。

「報告型」→資料を読み・調べて報告する

「論証型」→問題を自分で立て、それを論じる
何らかの提案をする。

課題研究は「論証型」を目指すこと

テーマは自分たち（の生活）
に直結しているものがオススメ！
＝解決できる範囲の問題を考える
→解決できたら自分たちの生活が変わる。
→モチベーションが上がる。
→いい論文が書ける！

ダメな問いの例（6つ）

- ①大きすぎる
例)『愛とは何か』、『環境問題は解決できるか』
- ②高度に専門的な知識を必要とする
例)『新量子暗号は普及可能か』
- ③予想・予言など
例)『日本の次期内閣総理大臣は誰か』

〔学びの技〕 後藤芳文ほか 2014 玉川大学出版部 p24)

適切な問い（テーマ）とは？

- ①興味を持っている内容である
⇒その分野の資料を何時間も読み飽きないか
- ②問いの形になっている
⇒特に「Yes」「No」で答えられる形にすると論証すべきことが明確になる
例)「日本のサンゴについて」
⇒「日本のサンゴは絶滅してしまうのか」

〔学びの技〕 後藤芳文ほか 2014 玉川大学出版部 p16)

ダメな問いの例（6つ）

- ④how to もの
例)『どうすればよい小説が書けるか』
- ⑤調べたことを羅列するだけのもの
例)『世界にはどのようなダンスがあるか』
- ⑥調べればすぐにわかるもの
例)『太陽はなぜ明るいのか』、『〇〇の発明はいつか』

〔学びの技〕 後藤芳文ほか 2014 玉川大学出版部 p24)

適切な問い（テーマ）とは？

- ③大きすぎない
⇒例)『携帯電話は世界を変えるか』
⇒『携帯電話は高校生の恋愛を変えたか』
「今」「ここ」「高校生」というくくりで細分化するのがおすすめ。
大きいときには細分化する。
- ④専門的すぎない
⇒自分の知識レベルで対応できる範囲に

〔学びの技〕 後藤芳文ほか 2014 玉川大学出版部 p16)

<実際に問いをたててみよう>

- ①マインドマップを書き、
キーワードを選ぼう



- ②キーワードに質問をぶつけ、
問いを探そう

※コア探求で求められる課題研究論文＝ () 字

〈課題研究を書く目的〉

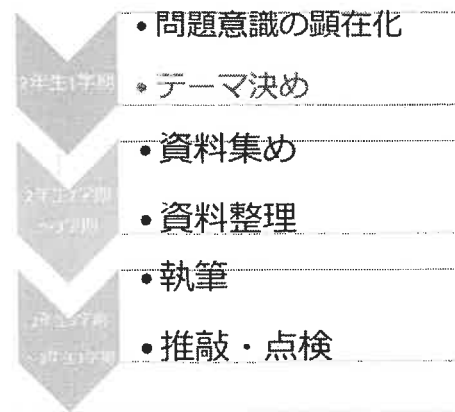
- ・究極的には世の中を変えること。基本として () を変えること。
- ・テストで高得点をとっても世の中は変わらない。しかし、君たちの論文がきっかけで変わるかもしれない。そんな論文を書いてほしい。
- ・「 」という質問にためらいなく「はい」と答えられる問題について書こう！

〈課題研究を書く目標 2年生版〉

- ・作文と論文の書き方の違いを知る。
- ・インターネット以外の資料を探せるようになる。
- ・引用を適切に行うことができる。

〈論文の種類〉

- 「 型」→資料を読み・調べて報告する
- 「 型」→問題を自分で立て、それを論じる
課題研究は「 型」を目指すこと



【今後の簡単な予定】

・テーマは () に直結しているものがオススメ！

〈適切な研究の問いとは〉

- ① () を持っている内容である→その分野の資料を何時間も読み飽きないか。
- ② () になっている
→特に「Yes」「No」で答えられる問いにすると論証すべきことが明確になる。
- ③大きすぎない(※大きい時には細分化する)
(例)『戦争はなくせるか』⇒『〇〇内戦は終わらせられるか』
- ④ () すぎない→自分の知識レベルで対応できる範囲にする。

〈ダメな問いの例[6つ]〉

- ① () すぎる (例)『愛とは何か』、『環境問題は解決できるか』
- ②高度に() 的な知識を必要とする (例)『新量子暗号は普及可能か』
- ③予想・予言など (例)『サッカー日本代表はワールドカップでベスト4に入れるか』
- ④ () もの (例)『どうすればよい小説が書けるか』
- ⑤調べたことを() するだけのもの (例)『世界にはどのようなダンスがあるか』
- ⑥調べればすぐにわかるもの (例)『太陽はなぜ明るいのか』、『〇〇の発明はいつか』
→ネットで調べてすぐに答えがわかるものはダメ。

◎今回の宿題！ 次回までに、論文のテーマになりそうなものを見つけ、タイトルを書いてくること。
課題研究の仮タイトル

2学期 コア探究II 進路探究ワーク②

Your Link to
the World

R

A：具体的な進路ってどう考える？

ワーク①

P19を見てお客さまに話をする順番を考えよう

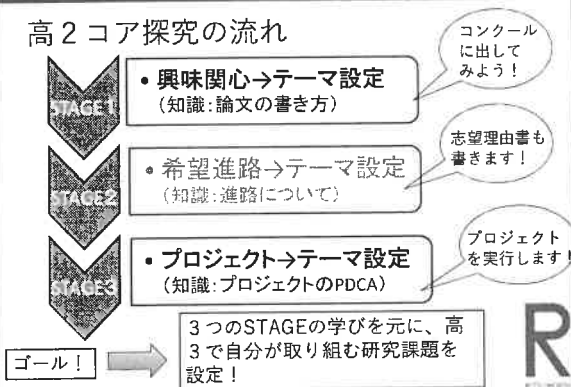
<答え>

消費者の心情は 注意→関心→欲求→記憶→行動の順で
移り変わると言われている。だから **1→5→2→4→3**

学問は身近な課題解決にも使われている

R

高2 コア探究の流れ



R

学問カルタに取り組んでみよう

- ①3人グループを作って机をつけましょう
(4人グループができてもいい)
- ②グループの中で名簿が最も前の人の台紙を広げ、カードを切り取りましょう
- ③先生の合図で開始です。台紙にある課題を読んで、その課題を解決できそうな学問をカードから選びましょう。

9時35分まで!

R

進路探究ワーク

～本時のテーマ～

C：社会と学問ってどうかかわってる？
～学問カルタをやってみよう～

R

テキストp22+カルタの答え合わせ

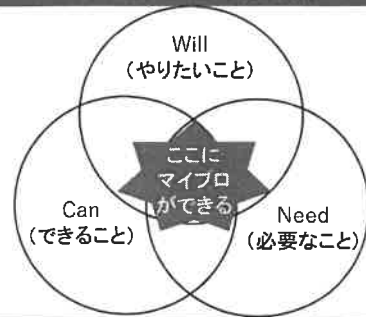
- ★学問カルタを見て、気になった学問や興味を持った学問を2つ選ぼう
(テキストp22記入)
- ★カルタの答えはテキストの一番後ろにあります

R

高校2年コア探究
 <4回目 2回目の企画書作成>



マイプロジェクトの3つの輪



チョコプロの取り組み (全7回)

- ①チョコプロの説明、My Willリスト作成
- ②企画書の作成、共有
- ③1回目の振り返り
- ④**2回目企画作成、共有**
- ⑤ふりかえり、グループ発表
- ⑥クラス内発表
- ⑦学年発表



本日の授業の流れ

- 1、教員から2回目の企画書を作るにあたって (5分+α)
- 2、企画書作成 (個人10分→ブラッシュアップ5分→個人5分)
- 3、グループでのプロジェクト共有 (グループ) (1人1分程度で発表)
- 4、クラスでのプロジェクト共有 (1人1分程度で発表)

次回の授業で、2回目のプロジェクトを発表してもらいます！



本日のキーワード 2回目の意味を考える！

プロジェクトを進めるのも練習です！プロジェクトの進め方やPDCAサイクルの回し方もこの機会に学びましょう！



視点を意識しよう！

自分⇒他者へ！

他者が喜び、自分も楽しめる！
 他者の視点を入れよう！

テーマをみると・・・

自分視点

- ・映画を英語音声の字幕なしでみる
- ・部屋の模様替えと掃除を1週間して、部屋を綺麗に保つ
- ・左手で晩御飯、風呂はんをエジソンの左利き用のお箸を使って食べていた
- ・トランペットをもう一度始める
- ・1週間マイナス発言なし生活

他者視点

- ・1週間かけて苦手な虫を克服し、周りに困っている人がいる時に、自分が自ら触って外まで誘導することに挑戦した
- ・毎日放課後に、担当ではなくても、自分から進んで教室の掃除を行いました
- ・1日100回、ありがとうを言う！
- ・1週間姉の服装を考える

発想を自由に！

誰かのためにやっていることが
全て自分のためになる！

自分⇒他者へ！



1週間やってみてpart1・・・

- ・1週間虫に対する情報を少しずつ集めたり、自分の虫への偏見をなくするために色々調べた。最初はあまり写真なども見れなかったが、最近は少しずつ苦手意識を克服できた気がする
- ・やりたいことをたくさん書いて1つ1つ実行して行けたらいいなと思ったので、ひとつ実行したことで達成感を感じたしこのように紙に書くことでより実行することが明確にわかりました
- ・一週間だとやはりとくに変化を感じなかった。もっと何か月と続けるべきだと感じた
- ・継続するのは気持ちいい。
- ・自分の行動力や計画力の無さに気付いた
- ・英語を学ぶ上で、自分が興味ある映画で置き換えて行うことでより楽しみながら理解することができた。勉強だけでも大事だと思うが、自分が好きなことと合わせながら学ぶことも良い方法だと感じた。

2回目のプロジェクトを考えるにあたってのポイント

(改めて自分に問かけること)

- ・そのプロジェクトは本当にやりたいこと？
- ・そのプロジェクトは誰かを喜ばせるもの？
- ・そのプロジェクトは1週間で実現可能？

(実際にプロジェクトを考えるにあたっての視点)

- ・1回目のプロジェクトを改良する？
- ・新しいテーマにする？
- ・思い切って学校外のコンテストなどに出す準備はできない？

(1回目を次にいかすために考えること)

- ・なぜ成功した？
- ・なぜうまくいかなかった？
- ・上記の2つから成功のコツは？(テーマ？行動の仕方？)

1週間やってみてpart2・・・

- ・自分からの発信はなかなか大変で難しいけれど、達成感がすごいと感じた
- ・自分で立てた目標を達成するために1週間意識することで、いつも汚かった部屋が綺麗になり、親にも褒めて貰えるようになりました。なので、自分で常に意識しておくだけで自分は変われるのだなど、自分の行動を通して気づくことが出来ました。
- ・毎日続けることが思ったよりも大変だった。コーヒー豆をひいてもらったが粗かったため1日目のコーヒーが薄くなった。それでも美味しかったし、ちゃんとひいて飲んだらより美味しかった。自分も楽しめた。
- ・1度やめていたのでこのチョコプロを通じてまた楽器に触れる機会ができて良かったと思う。楽しさを思い出したのでこのプロジェクトが終わってからも続けていこうと思った
- ・利き手を変えるだけで新鮮な気持ちになれて楽しかった。また、最近帰宅時間が早いので家族とご飯を食べることが多く、私を見て家族は逆に左手でお箸を持つことに挑戦するなど一家だんらんのよい要素になった

1回目の振り返りをどう反映させたか？

私は〇〇を(に)〇〇する！



企画概要・目的

どのような方法・アクションをするのか

1週間のプランを詳細に書こう！

- ・ / ()
- ・ / ()
- ・ / ()

高校2年 コア探究 (1月28日・2月4日)



今日の授業の流れ

- 1、大学生の先輩による活動紹介 10分
(山本先輩)
- 2、今後の流れ・本日やることについての説明 10分
<酒井よりイベント紹介あり！>
- 3、探究課題を探るワークシート記入（個人作業）20分
*シートにもう一度取り組みたい場合はもう1枚渡します。
- 4、classiアンケート（先輩へのメッセージ、ここまでの記録）10分

2年生のうちに来年度のテーマを決めます！
そのつもりで取り組みましょう！

高2 コア探究の流れ



STAGE 1
• 興味関心→テーマ設定
(知識：論文の書き方)

コンクール
に出して
みよう！

STAGE 2
• 希望進路→テーマ設定
(知識：進路について)

志望理由書も
書きます！

STAGE 3
• プロジェクト→テーマ設定
(知識：プロジェクトのPDCA)

プロジェクト
を実行します！

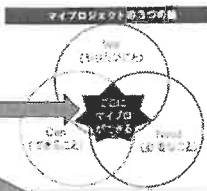
ゴール！

3つのSTAGEの学びを元に、高3で
自分に取り組む研究課題を設定！



ここからの問い

1年かけて高校生活の集大成として
自分のテーマは何？
その表現の方法は論文？
プロジェクト？起業プラン作り？
とあなたのマイプロは何？

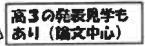


<マイプロの種>

- (今までコア探究で取り組んできたこと)
- ・ My Will List で自分のやりたいことを考えた。
 - ・ チョコプロという形でやりたいことを形にした。
- (他に取り組んできたであろうこと)
- ・ 中学校までに取り組んだ何か
 - ・ 現代社会、政治経済やSDGsの授業での経験
 - ・ その他課外での経験

論文：1月21日の発表
(多くが論文だったはず)
プロジェクト：総先輩
や前回の先輩たち
起業プラン：後日！
(マイプロジェクトなので1人が
基本ですが、プロジェクトや
起業プランでは最大3人までの
グループ可。SDGsやグロシチ
との連携もあり)

3学期の授業の流れ

1月14日(金)・1月21日(金) 
→チョコプロからマイプロジェクトのテーマを探る

1月28日(金)・2月4日(金)
→今年度の学習から高3でのテーマを探る

2月25日(金)
→まとめ・次年度のテーマ確定

2月末には来年度のテーマを仮確定します！

<次年度コア探究(予定)>

プロジェクト+報告書(3000文字以上)

OR

起業プラン作り+報告書(3000文字以上)

OR

課題研究論文(8000文字以上)

OR

実験レポート(未定ですが、理系中心に検討中)

<プロジェクト/起業プラン作成についての補足>

何らかの社会課題に対して、問いを立て改善案を考える
→実際に解決に向けて実行する

- *プロジェクトの実行/起業プラン作成とその報告書完成(3000文字以上)が成果物。
- *プロジェクト/起業プランが多すぎた場合何らかの形で選考する可能性があります。
- *SDGsやグロシチなどで取り組むものでもよい
- *グループで取り組みたい場合は3人を上限とする
- *マイプロジェクトアワードまたは起業コンテスト、ワンワールドフェスティバルに応募することを必須とする。
- *プロジェクトテーマは自分で考えるが、上限3名で植物公園活性化プロジェクトに取り組むことを可とする。

⇒2月25日の授業で仮決定してもらいます。

⇒どれを選ぶとしてもテーマが重要です。
情報収集しながら考えていきましょう!

本日のワークシートについての補足説明

- ・テーマを考えるにあたっては、情報収集やその整理が重要!
- ・情報収集する際には問いが重要



シートに取り組むことで、情報収集もそのための問いもできます
今日は特に3・4にしっかり取り組むこと

(補足)

- *本日配るワークシートは次回も使います!
- *裏面の説明を見ると、探究課題(テーマ)の条件がわかります!

今日、取り組むこと

- ①情報収集と問いづくり(ワークシート)
- ②自分のテーマ及び方法(論文?PI?など)の見通しを持つ
- ③classiアンケート(仮テーマ・先輩への感想)
→遅くとも残り5分程度になればclassi

(補足)

- ・もう1枚ワークシートが必要な場合は担任の先生へ
(グループで取り組むので新しく用紙が必要など)
- ・チームを組む場合、次回の授業で(個人でなく)チームで取り組む理由やチームとして大事にしたいことも聞きます。
- ・コア探究の授業は次回が最後です、高校入試期間などを
利用して、自分のテーマを考えておくこと!
(チームを組む場合は誰とするかも考えておくこと)

<注意>

* 探究課題はすぐに決まるものでもなく、仮に決めたテーマについて情報収集をすることが重要です。決めても進めているうちに少しずつ変わります。今日のシートに取り組むことで情報収集の際に重要な視点に気づきます。

* このワークシートは来週も使います。書き直しは当然起こります。2週間で来年のイメージを深めていきましょう。シートに書いた内容は2月4日にclassiに記録として残します。また指示します。

1, 探究課題（テーマ）（例：高齢者がいきいきと元気に生きていける社会を実現するには？）

--

2, 上記のテーマをどんな形で表現したいですか？（○をつける）

論文、プロジェクト、起業プラン作り、その他(実験やものづくりなど)

3, つくりたい未来と気になる現状

「こうだったらいいのに」と思うこと（つくりたい未来） (例：高齢者がいきいきと元気に生きていける社会)	「どうにかしなければ」と思うこと（気になる現状） (例：高齢者がひきこもっている)
--	--

4, 3を具体化するための小さな問い（挙げられるだけ挙げ情報収集も同時に行う）

①「対象」を具体化するための問い

(例：どこに住んでいる高齢者?)	(例：ひきこもっている高齢者とは何歳くらいの人?)
------------------	---------------------------

②「状態」を具体化するための問い

(例：いきいき、元気とはどんな状態?)	(例：ひきこもりとはどんな状態?)
---------------------	-------------------

③つくりたい未来と気になる現状のギャップを生み出す「原因」を具体化するための問い

(例：なぜ高齢者はひきこもるのか?)

④つくりたい未来と気になる現状の解決につながる「方法」を具体化するための問い

(例：ひきこもりの高齢者を救う仕組みにはどんなものがあるのか?)

チョコプロ (取り組み例)

多くの人に元気を!

企画

*組*番****

一回目と二回目の違い

<一回目>

英検合格のための英語の勉強



自分のためから多くの人のためになることに変更!!



企画概要

Instagramのストーリー機能を利用して応援ソングを流す

例) GReeeeN, WANIMA, サンボマスター

きっかけ

テスト期間中で疲れている人が多い

*著作権上使用許可得た曲を15秒以内24時間で消えるストーリーのみという規定を守って流す



Instagram

振り返り

アンケート結果⇒ **好評!!**

今後に向けて

<今回>

私がおすすめる応援ソングのみ



みんなのおすすめの曲も流す

(総括・全体概要)

- ・テーマ設定にこだわったカリキュラム実施は初めてであった。いくつかの改善点はあるが、コンセプトや内容は概ねこのままでよい。特に先輩によるプレゼンは教員にとっても次年度以降の見通しを持つことにつながる。
- ・「労力を減らすと失うものもある」という当然のことが総括で改めて浮き彫りになった。生徒への個別対応、成果物へのフィードバックの機会、教員それぞれが指導案をブラッシュアップさせることなどは、できた方がよいことである。一方で1 vs 40 という中での限界もある。運用の工夫は今後も求められる。
- ・生徒の個人差を前提としつつ、何を目標に、どの程度の負荷を必須とするのか（言い換えればそれ以上はオプション）については今後も引き続き検討が必要。（1 単位なので最低ラインは低い方がいいと思うが、..）
- ・キャリア部が統括、学年から 2 名の教員が主担当という形で回したが、それによる良さもデメリットもある。ただし教員も成長するコア探究にするという視点は、今後も重要なことである。

(次年度に向けて)**<すぐに実施できそうなこと・継続すること>**

- ・カリキュラムの内容や順番は概ねこのままとする（進路探究前倒しはありかも？）。先輩によるプレゼンは定期的に入れて、生徒はもちろん教員にも先のイメージが持てるようにする。
- ・進路探究については、進路イベントとのリンクを意識する。
- ・チョコプロ実施の際は、はじめに先輩のプロジェクトを見せる。また「普段行わないこと」などの条件を入れる。（ある先生はご自身でもチョコプロをされていた。結果的にそのクラスには意図がより伝わったようにも思う。負担にならない程度に教員でもやってみたらいいかもしれない）。
- ・生徒同士で突っ込みあえるような時間を十分に確保する。

<実施方法を検討すべきこと>

- ・生徒の発表や作品に対して、高3や大学生による個別のフィードバックをする時間の確保。
- ・担任以外の教員が生徒にフィードバックする時間の確保。
- ・プロジェクトを評価するルーブリックの作成と教員間での目標の共有
- ・3 学期はこれまでのコア探究で学んできたこととのつながりを生徒がより意識できる工夫（たとえばこれまでの作品を読み返して大事なところに赤を入れてつながりを考えるなど）
- ・共通の教材はあるとしても、担任の先生の個性をもう少し発揮できるようにすればよかったかも。
- ・入学前課題（課題研究メソッド basic）の活用

.....以下は先生方からのコメントです.....

○継続すべきこと

- * 論文、プロジェクトの両方に配慮した取り組みそのものはとても良かったと思います。プロジェクトの立て方や文章の書き方を学習すること色々な形で自身の考えをアウトプットして表現することがよかったです。
- * 基本的にはこのままの継続でいいかと思います。
- * この1年間で取り組んだ全てが高2生には必須の取り組みだと思いました。「3000字論文」は普段の生活で短いメッセージしかやり取りしない今の高校生が、自分の考えを言語化し、検証し、他者から批評を受ける良い取り組みだったと思います。また「チョコプロ」は小さな取り組みの中から気付きを得ることや、自分の力を他人に貸すことで自分の適性がわかり、それが将来の職業選択につながることをおぼろげながら理解できたのではないかと思います。

△改善すべきこと

- * チョコプロについては少し改善が必要かなと思いました。また、やめるべきことはありませんが、コアの進め方や他人との交流の仕方について改善が必要な部分があるかなと思いました。
- * 「志望理由書」を書かせた後のフィードバックが遅すぎる（まだ届いていない?）。業者に出すのが遅れたことも大きいと思われるが、真剣に取り組んだ生徒は意外と結果を待っています。
- * 今年は2名の若手教員が中心となり授業運営を担いましたが、昨年度のようにパワポ作成や自己紹介等で担任全員が授業計画や運営にかかわる所がもう少しあっても良かった。1つ1つのプロジェクトには真摯に取り組みそれぞれの気づきが得られたと思います。それが積みあがっていない生徒が多いのかなと感じました。
- * 週に1回だけなので1週間後に前にやったことが生徒の中で残っていないことが多く、難しさを感じました。もちろん1つ1つのことをきちんとやり続けている生徒は成長につながっていると思いますが、受け身になってボーッと受けているだけの生徒にとって何か強く残るものであってほしいという思いがあります。その企画を通して「何を達成させるのか」「どこまでのレベルまで達成させるのか」を明確にしておく必要性を感じました。コアの目指していることはこれからの人生でも大事なことなので素晴らしいと思っています。ただ、今の生徒の現状を鑑みたとときに、どういった部分に負荷をかけていった方がいいのかは議論の余地があると思います。指導する側の問題もありますので偉そうには言えませんが…

検討!

- * キャリアと論文・プロジェクトの連関。
- * 一番最初の3000字論文について、出来上がった成果物をどうするか検討する必要があると思います。
- * それぞれの担任がもっと教材研究をする必要があるのではないか。また同時にその時間の確保も必要ではないかと思えます。
- * 上記で上げたテーマの継続性と深まりと、もともと思考力の弱い生徒や、さぼりがちな生徒への対応です。
- * 生徒が全員同じことをする必要はあるのか。（生徒ごとに興味やニーズや意識や段階が異なる。）

より良くするために

- * 3学期に実施したプロジェクトのお話を先にしてから、チョコプロに取り組む。キャリア学習を十分に実施してからそれを意識した論文とプロジェクトに取り組む。
 - * チョコプロはプラン設計の説明からプラン設立・実施までながれにうまく乗ることができた生徒が少なかったように思う。ですので、「ゴミ拾い」「募金」「部活頑張る」など例やすぐ思いつくような内容が非常に多く上がった気がします。来年度はここに「普段行わないこと」などを入れてみてもいいのかもしれないと思いました。
 - * 教員間でコアの進め方への熱量にかなりの差があったように思います。また、コアをメインの先生2名にお任せしていたため、「授業をさせてもらっている」という教員の方（私だけかもしれませんが）が「お客様姿勢」になってしまったかもしれません。
 - * 共通の教材は便利であるしブレも少なくすみますが、担任が様々なアイデアを加えて運営し、それを交流し合う方が全体も高まっていくのではないかと考えます。そのための時間を確保する（コアは本来1コマの授業を2コマカウントしてもいいような内容であると思う）こととセットで考えないといけないと思いますが…。
 - * 論文、チョコプロの両方で教員からの批評が必要かと思えます。ロールモデルとなる学生を発表の場で招く機会が欲しいと思いました。思考力の弱い生徒や、さぼりがちな生徒への対応も、やはり教員のフォローが必要であると思えます。個別に生徒を見る体制がもう少しあれば、コア探究のプロジェクトの質だけでなく生徒層の底上げにもつながると思います。節目となる発表の場面では当該学年を持ってもらっている色々な先生に見ていただき、生徒の多様な力を引き出すような声かけをしてもらえる機会を作って頂けたらと思いました。
- 各学年の生徒の達成度を評価する目安となるルーブリックがあれば、担当教員の一致した見解のもとにより的確な

フィードバックが出来ると思えました。

*私も含めて教員間の中で「何を達成させるのか」をもっと具体的かつ明確にするべきだと思います。理念は間違っていないので、その間に置くステップをどうしていくのかを考えていく必要があると思います。

○指導する中で自分自身が学べたことや気づいたこと、学べなかったこと、フォローが欲しかったこと

*テキストを用いたキャリア学習で大学の学部を検討する際に、どうなるかわからない将来の就職を考慮するよりも、自分の興味・関心を追求することこそが大事だということは腑に落ちました。途中から学年団に所属した担任教員への簡単な引継ぎをしていただけるとありがたいです。

*今まで志望理由書の記述などには全く関わってこなかったので、それらの文章の書き方や存在する資料集の情報などが勉強になりました。また、1年のときより2年のコアではアウトプットの機会が非常に多く、どのようにアウトプットさせるのかという手法やワークシート手順、また発表に来てくれた堀君などコアを頑張りだした生徒はこうなるんだという像は非常に参考になりました。

*生徒に「何を考えさせるのか」を深くわからせるための工夫については毎回考えさせられました。

*過去にプロジェクトや論文を実際に行ったり執筆した生徒を紹介していただけたことで、高校2年間のコア探究の授業を受けた生徒がどのような成長を遂げていくのかイメージができました。

★酒井、吉留 T、松崎 T での総括(要点)

*カリキュラムの内容や順番は概ねこのままでいいのではないかな。

*共通の教材はあるとしても、担任の先生の個性をもう少し発揮できるようにすればよかったかも。

*年間通じて一貫したテーマでやってきたが、もっと生徒の中でつながる方法があったのではないかな。

例) 3学期のところでこれまでのものを読み返し、大事なところに赤を入れて、どうつながっているのか考えさせる時間をとる。

*最終的に本当にこのテーマで行けるのかどうかは、他者の視点が必要。担任が40人を見る形では教員が丁寧に見ることは難しい。生徒同士で突っ込みあうなどをもっと取り入れてもいいのでは？

*中学校で TOK 道德など身近なところを考えているので、高校で社会とつながっていく視点は大事。コロナがあけて、高1のボランティア的な活動が復活すれば、いいなあ。

★生徒アンケートから

*ついた力 (多かったもの)

・考える力 (将来、社会、興味など) ・書く力 (論文など) ・計画や行動する力

*もっと良くなるための提言 (多かったもの)

・グループワークを増やす。意見や考えを交流する時間を増やす (自分のクラス・他のクラス・先輩など)
・先輩の話を聞いたり、実際にプロジェクトを校外でもやってみたりする機会の設定

*なぜコアがあるのか (多かったもの)

・将来について考える ・社会で (生きるうえで) 必要な力を身に付ける

